

令和3年度 仙台版防災教育

研究推進取組発表校報告書



私には何ができるだろう 感謝の気持ちを 忘れないこと
復興を 心から祈ること 優しさと笑顔を みんなに届けること
復興ソング「仲間とともに」 より

令和4年3月
仙台市教育委員会

令和3年度 研究推進取組発表校 一覧

分科会	学校名	年間指導計画作成上の工夫	発表者	ページ
第1分科会	袋原中	・地域の特性を踏まえ、地域と連携しながら防災対応能力の育成を図る。 ・防災に対する学びを増やし、一人ひとりの危機意識の向上を目的とした特色のある防災教育の導入。	教諭 今野 雄介	1 ~ 2
	鶴谷小	総合的な学習の時間を中心とした防災学習や、全校一斉防災学習日の定期的設定	教諭 佐藤 佑樹	3 ~ 4
	台原小	「総合的な学習の時間（4年）と児童会を中心とした防災教育」	教諭 掛川 恵一	5 ~ 6
	西多賀小	「東日本大震災を知ることを中心に据えた防災教育」	教諭 田嶋 薫	7 ~ 8
	加茂中	・道徳や総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・地域と連携した防災意識の向上（ボランティア活動への積極的な参加）	教諭 小野 惇希	9 ~ 10
	愛子小	・地域と合同防災訓練の実施 ・避難訓練振り返り時の防災副読本の活用	教諭 峯岸 大輔	11 ~ 12
第2分科会	四郎丸小	「自助・共助のためにできることを自ら考える力を育む防災教育」	教諭 目黒 広之	13 ~ 14
	広瀬中	・総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・震災の記憶風化の抑止（震災遺構訪問）	教諭 伏谷 史郎	15 ~ 16
	八乙女小	・「教科等横断的な防災教育」 ・「児童の問い（思い）」に寄り添った総合的な学習の時間【防災】」	教諭 芳賀 淳志	17 ~ 18
	小松島小	平常時から自然災害に対する意識を高める防災教育	教諭 吉田 和人	19 ~ 20
	鶴谷特別支援	・短時間で多く行い、防災意識を蓄積 ・小中高の系統性 ・分かりやすい学習内容と教材教具	主幹教諭 早坂 敬也	21 ~ 22
第3分科会	富沢小	・当事者意識を高める防災教育 ・教科等の学習活動で取り組む防災教育	教諭 阿部 広太郎	23 ~ 24
	虹の丘小	学校独自の「ぼうさいタイム」を活用した仙台版防災教育年間指導計画の実施	教諭 佐々木 遥平	25 ~ 26
	錦ヶ丘中	総合的な学習を中心とした、教科横断的でありアリティのある防災教育の実践	教諭 及川 基	27 ~ 28
	袋原小	「日常生活や、各教科との関連を図った防災教育の推進」	主幹教諭 佐藤 典昭	29 ~ 30
	荒井小	学校全体の防災安全行事とリンクした、効果的な教科・学活の指導	教諭 佐々木 直子	31 ~ 32
第4分科会	台原中	震災遺構学習を通じた防災教育と台原中学校区の地理や自然環境を考慮した防災教育	教諭 窪 利崇	33 ~ 34
	東四郎丸小	「自助・共助」「地域との連携」「自分事として捉える」	教諭 木村 啓太	35 ~ 36
	鶴谷東小	「体験的な活動」「日常生活や各教科との関連」「発信者」	教諭 伊藤 浩也	37 ~ 38
	広瀬小	「災害を自分事として捉え、身の守り方や協力し合うことの大切さを考える防災教育」	教諭 松田 啓弘	39 ~ 40
	黒松小	・安全教育と合わせた「命を守る教育」 ・1年生スタートカリキュラムでの「命を守る教育」の実施	教諭 小池 昂史	41 ~ 42
	富沢中	地域と連携した防災教育	教諭 千葉 政孝	43 ~ 44
第5分科会	八乙女中	・避難訓練等の体験的な活動を通じた防災教育の実施 ・八乙女中学校区周辺の防災ハザードマップを活用した防災教育の実施 ・日常生活や各教科、領域と連携した防災教育の実施	教諭 菊池 皓大	45 ~ 46
	旭丘小	・「朝の活動や総合的な学習の時間を中心とした防災教育」 ・「保護者や地域と連携した防災教育」	教諭 庄司 幸弘	47 ~ 48
	大野田小	「総合的な学習の時間を中心とした防災教育 自分でできる防災教育」	教諭 竹中 有美	49 ~ 50
	鶴谷中	地域と連携し、自助・共助のスキルを高める防災教育	教諭 藤田 耕太	51 ~ 52
	錦ヶ丘小	「学年間のつながり」と「学習内容間のつながり」を明確にした防災教育	教諭 川崎 史恵	53 ~ 54
	加茂小	・「総合的な学習の時間を中心とした防災教育」 ・「地形や自然環境を考慮した防災教育」	教諭 竹村 和克	55 ~ 56

仙台市立袋原中学校

担当者 今野 雄介

1 学校・地域の実態 → 1 - 4

- ・**児童生徒**：震災から10年が過ぎ、ほとんどの生徒が震災時の状況を断片的に覚えている程度である。閉上のすぐ隣に位置する学区なので、当時の悲惨な状況を親から聞かされていたりするが、幼少期の出来事だったため、あまり実感が湧かない生徒が多い。震災以降、防災リュック等災害に備えているという生徒は多く見られる。
- ・**保護者**：保護者自身が震災時に沿岸部で被害を受けた経験を持つ方が、他の地域よりも多いので、防災に対する意識は高いといえる。しかし、共働きの家庭が多く有事の際の生徒引き取りまでに時間のかかる家庭が多いことが実情である。
- ・**地域性**：連合町内会が2つあり、それぞれの町内会で防災訓練を実施しているが、学校と連携した訓練は行っていない。地区生徒会を組織しており、地区清掃などを通して地域とのつながりがあるので、今後は地域との合同防災訓練等を目指すことも検討している。
- ・**東日本大震災時の地域の状況**：閉上との境目にある東部道路のおかげで瓦礫はストップしたが、水はこの地域一帯へも流れ着いた。浸水はしなかったものの市ガスと電気は止まり、水道は地区によっては断水となった。3/11の際に避難する地域住民はほとんどいなかったようだが、4/7の余震では1ヶ月前の津波の脅威を感じて住民たちが慌てて避難し、主要道路が大渋滞となった。

2 目指す児童生徒の姿 → 3 - 4

- (自助) 平常時から災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒を育成する。
- (共助) 平常時から人々と関わり、災害時に進んで他の人や地域のために行動する姿勢を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・地域の特性を踏まえ、地域と連携しながら防災対応能力の育成を図る。
- ・防災に対する学びを増やし、一人ひとりの危機意識の向上を目的とした特色のある防災教育の導入。

4 児童生徒の変容

- ・荒浜小震災遺構の見学に対し事前学習講話を設けることで、より身近なところで大きな震災が起きたことを実感することができた。
- ・今までにない視点で防災に対する意識を高めることができ、避難訓練に取り組む姿勢については大きく変容した。

5 実践の具体

【1年次】

「荒浜小見学事前学習講話」当時荒浜小職員の阿部淳一先生より当時の状況について講話を受けた。
 「荒浜小震災遺構」ガイドの方に案内されながら津波の脅威や荒浜の変貌ぶりの説明を受けた。また学習用ビデオを鑑賞したり、津波により流された住宅の基礎部分が残っている跡地を見学したりして、津波の威力のすごさを感じた。その後、荒浜海岸に出てきれいに整備された砂浜の様子を探索した。
 「松島遊覧船語り部講話」当時の海の様子や船を守った対応の仕方を汽船会社の方から講話を受けた。

【2年次】

「南三陸町にて震災学習」バスで移動しながら町の観光協会から派遣されたガイドの方から震災時の状況について詳しく説明を受けた。整備された河口の様子から津波の威力を感じとり、南三陸町防災対策庁舎を見学した。気仙沼市震災遺構伝承館の見学についてはコロナの影響で中止となった。

6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

令和3年度 仙台市立袋原中学校防災教育年間指導計画(第1学年)

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特別活動	道徳
4	・安全点検 ・緊急引き渡しカードの 配布と集計 ・学校防災マニュアルの 確認	・集団行動(保体) ・特別教室での注 意について(理科、 技術・家庭、美術) ・様々な自然災害 (社会)	・緊急引き渡しカードの確認	・校舎めぐり、避難 方法と避難経路の 確認	・B(7)礼儀
5	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動	・木工具の安全な 使い方(技術)	・絆を力に一歩ずつ(第2章1) ・約束(第2章2)	・GWの過ごし方	
6	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・中総体 ・避難訓練(地震)	・水泳(保体) ・木工具の安全な 使い方(技術)	・防災教育 ・仙台市の復興状況を知ろう(第2章7) ・世界でも自然災害のリスクが高い日本 (3章1) ・ハザードマップの確認 ・避難訓練(垂直避難を含む)		・C(16)郷土の伝統と 文化の尊重、郷土 を愛する態度 ・C(12)社会参画、 公共の精神 ・A(2)制度、節制
7	・安全点検 ・小中合同あいさつ運動 ・合唱コンクール ・地区生徒会 ・夏季休業中の安全 指導	・水泳(保体) ・身の回りの物質 (理科)	・地区生徒会	・夏休みの過ごし方	・C(13)勤労 ・A(2)制度、節制
8	・袋原フェスティバル	・水泳(保体)			
9	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・教育講演会	・暴れ川を治める (国語)			・D(19)生命の尊さ
10	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・新人大会 ・体育祭	・体育祭集団行動 (保体) ・調理実習(家庭)	・校外学習 ※事前学習講話(元荒浜小職員) ※荒浜小震災遺構見学 ※松島遊覧船にて復興語り部クルーズ	・秋休みの過ごし方	・C(14)家族愛、家 庭生活の充実 ・C(12)社会参画、 公共の精神
11	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・避難訓練(火災) ・地区清掃	・調理実習(家庭) ・身の回りの現象 (理科) ・住生活「火気の取 り扱いと安全点検」 (家庭)	・防災教育 ・地震に備えよう(第3章3) ・避難訓練 ・地域清掃		
12	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・冬季休業中の安全 指導	・災害への備え、 災害時の住まい と暮らし(家庭)		・冬休みの過ごし方	・B(12)思いやり、 感謝
1	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動	・大地の変化 (理科) ・地域に配慮した 住まい方(家庭)			・C(13)勤労 ・C(16)京都の伝統 と文化の尊重、 郷土を愛する態 度
2	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動	・大地の変化 (理科)	・救命救急講習		
3	・安全点検 ・小中合同あいさつ 運動 ・復興プロジェクト	・大地の変化 (理科)	・仙台平野 災害の歴史を学ぼう(3章4) ・復興プロジェクト全校集会	・春休みの過ごし方	・D(20)自然愛護

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 50
仙台市立鶴谷小学校		担当者 佐藤 佑樹
1 学校・地域の実態	➡	1・3
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：東日本大震災を経験していない児童が半数を超え、震災を実際のこととして捉えきれていない児童が多いものの、「自助・共助」の意識が少しずつ芽生えていることを、避難訓練や防災学習時の児童の様子から感じることができるようになってきた。 ・保護者：中学校区4校合同引き渡し訓練では、数年前に比べ保護者引き渡しを行うことができる家庭が増えてきており、今年度もスムーズな訓練を行うことができた。 ・地域性：鶴ヶ谷地域は仙台市の中でも自然災害に対して安全な地域であるが、避難所開設の際には、自由ヶ丘地区や岩切地区などから避難してくる方が多い。また、東日本大震災発生後に鶴ヶ谷地域に住まわれた方も多くなってきている。1月20日には、学校体育館にて避難所開設訓練を行う。 ・東日本大震災時の状況：校舎は北校舎と西校舎のつなぎ目が壊れたり、窓ガラスもかなり音を立てて余震のたびに校庭に亀裂が入ったりする状況で、液状化現象も見られた。鶴ヶ谷地域自体は地盤はよいものの、学校敷地は盛り土のため、一般家屋に比べて被害も大きいようだった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・3
○自助の力・共助の力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・平常時における「防災」・・・災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害等の必要な知識を身に付けるとともに、災害に備えて準備や約束をする力 ・災害時における「災害対応」・・・自らの身を守るとともに、学校・学級で定めたルールに基づき正しい判断を取ることができる力 		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント 総合的な学習の時間を中心とした防災学習や、全校一斉防災学習日の定期的設定		
4 児童生徒の変容 防災学習の場を確保し、各学年の実態に応じた指導を定期的に続けていることで、少しずつ防災への意識が高まってきている。また、最上級生の児童が避難訓練に真剣に臨んだり、防災について学んだことを全校児童に伝えたりする姿から、下級生に良い影響を与えている。		
5 実践の具体 (1) 全校一斉防災学習日の定期的設定 東日本大震災発生日(3.11)や、フリー参観日などを活用し、全校一斉で防災について学ぶ場を設定した。また、防災の日や津波防災の日には、校内放送を活用して防災主任や6学年代表児童が防災の大切さについて伝える場を設定した。 (2) 5学年総合での防災学習の確保 5学年の総合的な学習では、学校水田を活用して米作りを行っている。お米の収穫の時期に合わせ、津波防災の日に由来する「稲むらの火」へと関連付け、防災学習へと発展させていった。 また、荒浜小学校見学で学んだことを生かし、発表会や校内掲示、さらに校内放送を活用して全校児童に伝えていく場を作った。5学年で防災について学ぶ場を確保することで、最高学年になり下級生に伝えていく場を作ることもできた。		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること <ul style="list-style-type: none"> ■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 □ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

仙台市立鶴谷小学校防災教育年間指導計画

第5学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	下校指導 通学の確認 避難経路確認	家族の生活再発見(家庭科)			自転車に乗るとき【副読本】 災害の時【副読本】		
5	運動会練習(集団行動)	クッキングはじめの一步(家庭科)			命を守る【副読本】		お父さんは救急救命士
6	4校合同引き渡し訓練	整理・整とんで快適に(家庭科) 心の健康(保健)			命を守る【副読本】		
7	安全教室	できるよ、家庭の仕事(家庭科) 心の健康(保健)					おばあちゃんが残したもの
8							
9	防災学習(防災の日9.1)	いろいろな自然災害 【副読本】(理科) 着衣水泳(体育)					
10		食べて元気に(家庭科) 流れる水のはたらき(理科)	野外活動で 宿泊施設で 【副読本】				
11	防災学習(津波防災の日11.5) 避難訓練(火災)	町の幸福論(国語)			災害の時【副読本】		
12		情報科した社会と産業の発展(社会)	災害のとき【副読本】				
1		情報を生かすわたしたち(社会)	防災グッズを知ろう	防災グッズを作ろう			親から子へそして孫へと
2		わたしたちの生活と環境(社会) 暖かく快適に過ごす住まい方(家庭科) 電流が生み出す力(理科)	防災についてまとめよう	防災についてまとめよう			友の命 一本松は語った
3	防災学習・復興プロジェクト(東日本大震災発生日3.11)	自然災害を防ぐ(社会)	防災についてまとめよう	防災についてまとめよう			

1 学校・地域の実態 1 - 4

- ・児童生徒：震災を経験していない児童が多数を占め、震災について学校、保護者、テレビなどからの情報は得ているものの、被害の実像に迫る経験をしている児童は少ない。ただ、家庭によっては、日常から震災への備えをしているところもある。
- ・保護者：コロナ禍前の様子では、学校行事への参加者は多く、協力的な家庭が多い。学区が街中心部に近く、マンションに住んでいる家庭も多いこともあり、地域のつながりは薄い。
- ・地域性：町内会同士の連携がなく、震災以前も以降も地域の防災訓練はされておらず、学校との連携した訓練も行っていない。
- ・東日本大震災時の地域の状況：
東日本大震災の経験のない児童らが多くなり、また、地盤が固く、大きな被害がなかった地域であったこともあり、地震に対する防災意識は薄い。

2 目指す児童生徒の姿 2 - 4

(自助) 平常時から災害に関する正しい知識を持ち、そのような場面に遭遇したとき冷静に判断し、対応できる対処力を身に付けた児童の育成。自分の命は自分で守ることのできる児童の育成。

(共助) 平常時から進んで他の人のことを考え、行動できる児童。地域の力となれる児童の育成。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「総合的な学習の時間（4年）と児童会を中心とした防災教育」

4 児童生徒の変容

- ・最初こそ、震災についての関心の高まりは感じられなかったが、活動を積み重ねていくうちに、だんだんと日常への備えへの重要性や地域にも危険な箇所があることを知り、防災意識への高まりが感じられた。
- ・児童会中心の3. 11について考える時間においては、司会が児童であったり、クイズが入っていたりすることから、子どもの目線で震災を捉え直す機会となっている。

5 実践の具体

(1) 3. 11にせまる～東日本大震災とその教訓～ 授業実践（4年生）
防災副読本の学習と並行しながら、震災についてブックトークや読書、インターネットの情報を活用しながら、自分なりの問いを持つことから始めた。次に災害について気付いたことを話し合い、防災について自分の意見や課題を持つようにさせ、それらを踏まえて、自分が今まで体験したことについての意見をまとめたり、これからの防災の課題について調査したりしながら、新聞作りを進めた。そして、最後に地域に対する防災の目を向ける活動として、保護者とフィールドワークをしながら台原小学校区の地域防災マップを作った。また、ゲストティーチャーを呼び、防災簡易トイレ作りを通して、防災についての関心と対応力を高める活動も行った。

(2) 3. 11の児童会主催の震災について考える学活の時間（全校児童）
一昨年度から始まったが、校長講話中心だった震災について振り返るテレビ放送を、児童会が司会を担当し、クイズなども織り交ぜながら震災について考え、捉え直す時間とした。

6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1. 2の の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

4学年 防災教育年間指導計画

仙台市立台原小学校

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の経験に学び、防災に関する知識を身に付ける。 ・災害が起きたときに自分の命は自分で守ることができるようにする。
----	---

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する間接的 な内容	
月	関連行事等	教科	総合		特別活動		道徳
4	校区・通学路の安全確認 交通安全指導				避難経路の確認 1章① 東日本大震災発生		
5			東日本大震災について知ろう。(ブックトーク, ネットで調べる。)				
6	避難訓練(地震) 教職員救命救急法研修	体:泳ぐ運動 ・浮く運動			避難訓練事前・事後指導 4章① 災害が起きたら		わたしの見つけた小さな幸せ(生命の尊さ)
7			防災出前授業①(東北大 谷口先生)			・夏休みの生活	「もっこ」をせおって(勤労, 公共の精神)
8 9	着衣泳指導	社:地震から暮らしを守る			4章③災害に備える	校外学習	
10				地域防災マップ作り	5章③:取り組みもうボランティア活動		バルバオの木(生命の尊さ)
11	避難訓練(火災)			防災出前授業②(東北大 谷口先生)	避難訓練事前事後指導 4章②災害から身を守るために	・冬休みの生活	
12					2章⑤一番大切なことは		
1	故郷復興プロジェクト				5章④震災を乗り越えて		走れ江ノ電光の中へ(生命の尊さ)
2							
3					2章②:復興へ今を力強く	1年間の反省と次年度に向けて	

は、新防災教育副読本を活用した学習です。

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 18
仙台市立西多賀小学校		担当者 田嶋 薫
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：校舎の老朽化等の影響もあり、昨年ゴールデンウィーク初日の地震でも校舎に破損箇所ができるなど、児童にとって特に地震は身近な災害である。しかし、東日本大震災から時間が経過し、災害への具体的な知識がある児童は少ない。校内では4月から6月までの早い時期に各種避難訓練や引渡訓練を実施し、新教室から災害に応じた避難経路を知ったり、学校長による震災当時の写真を活用した講話を実施したりして、防災への知識や対応力を深めている。 ・保護者：引渡訓練など学校行事への参加者は多く、協力的である。 ・地域性：西多賀地区町内会連合会の避難所である西多賀中学校にて合同訓練を実施している。 ・東日本大震災当時の地域の状況：校舎への被害が大きく、児童の学校生活への影響も大きかった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2
<p>(自助) 日頃から地震等の災害に備え、適切な避難行動を取ることができる児童。</p> <p>(共助) 災害時に周囲の人々と協力し、自分にできることを実践する児童。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「東日本大震災を知ることを中心に据えた防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災を学ぶことにより、被害にあった人々の思いを知ることができた。 ・さまざまな災害と減災防災についての知識や意識が高まり、地震等があった場合は素早く避難態勢に入れるようになった。 		
5 実践の具体		
(1) 「震災遺構 荒浜小学校」		
4年生にて、荒浜小学校の元校長先生を講師に出前授業を行った。震災当時の荒浜小学校の様子などを多くの画像等を紹介していただきながら学習した。そのおよそ1週間後、実際に「震災遺構 荒浜小学校」への校外学習を実施した。児童は出前授業→校外学習と連続した学習の中で震災への理解を深め、防災への意識を高めたことが学習後の感想や講師にあてた手紙の内容から確認できた。		
(2) 震災語り継ぎ		
業前の時間を活用して、東日本大震災を小学校内で経験した教員による語り継ぎを実施した。当時の小学校で起こったことや町の様子を知り、自助や共助について考える時間となった。		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input checked="" type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用		
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

仙台市立西多賀小学校防災教育年間指導計画

小学校 第4学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合		特 活	道 徳	
	4	街頭指導① 学年別一斉下校① 1年交通安全教室 避難訓練(火災対応) 校庭の石拾い	・くらしを守る (社会)A(4)			・登下校の安全 避難経路の確認 非常時下校体制 の確認B(1) ・東日本大震災 発生☆A(3)	
5	避難訓練(地震対応) 学年別一斉下校② 避難訓練(不審者対応) 運動会						
6	避難訓練(ミサイル対応) (二次避難場所への移動) 児童引渡し訓練		・福祉を学ぼう (キャップハン ディ体験)E(2)		・災害が起きた ら☆B(1)		・わたしの見 つけた小さな幸 せE(3)
7	学区内巡視①					・夏休みの生活 F(3)	
8	(地域行事への参加) 街頭指導②					・地域行事へ の参加A(4)	
9	5年野外活動		・福祉を学ぼう (福祉施設の 見学)E(2)C(2)	取り組もう！ボ ランティア活動 ☆F(3)	・避難所設営見 学C(2) ・災害に備える ☆C(2)		・「ふれあいの 森」でE(3)
10	西多賀小学校区地域合 同防災訓練			・西多賀小学 校区地域合同 防災訓練への 参加E(4)			・日曜のバーベ キューF(4)
11	ポブラ音楽会				・災害から身を 守るために☆ B(3)		
12	学区内巡視②	・県の広がり とくらし(社 会)A(2)		震災語り継ぎ ①		・冬休みの生活 F(3)	・ゆうきの心配 E(2)
1	学年別一斉下校③	・「希望の道」合 唱(音楽)F(2)		震災語り継ぎ ②	・東日本大震災 体験者からの 講話A(4)		
2			・2分の1成人 式E(2)	震災語り継ぎ ③			・ポロといっしょ E(2)
3	故郷復興プロジェクト 大掃除			・復興への第1 歩☆F(4)	・防災知識を チェックしよう ☆A(1) ・仙台の自然災 害年表・復興 年表☆A(3)	・春休みの生活 F(3)	

☆末尾のA～Fは、仙台版防災教育における指導事項に対応


☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書			学校番号 249
仙台市立	加茂	中学校	担当者 小野 惇希
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域性：学校に協力的な地域である。学区が広く、半数以上の生徒が自転車登校をしている。そのため、小中で連携した防災訓練を実施することが難しい。また、感染症の影響もあり、地域との合同防災訓練などを行うことができていない。 ・児童生徒：日常生活における自他の安全への気配りや、地域の危険箇所の把握等の災害に関する学習は十分とは言えない。また、地域でのボランティア経験が少なく、共助の精神や方法を学ばせる必要がある。 ・学校：防災訓練が形式的なものになっており、実際に災害が起こった時にどのように行動すればよいのか教職員の中でも共通認識が不足している。 			
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 4	
<p>(自助) 日頃から災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時にも冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。</p> <p>(共助) 日頃から進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を育成する。</p>			
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・ 地域と連携した防災意識の向上 (ボランティア活動への積極的な参加) 			
4 児童生徒の変容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練へ真剣に取り組む生徒が増えた。 ・ 地域のボランティア活動に参加する生徒が増えた。 			
5 実践の具体			
(1) 防災訓練① (6月)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市防災副読本を使った事前学習 (「災害心理について学ぼう」を参照) ・ 避難訓練 (主に避難経路の確認) ・ 地区ごとに顔合わせ (11地区+学区外に区分) 			
(2) 防災訓練② (10月)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 震度5以上の場合の下校方法の確認 (集団下校 or 引き渡し) ・ 集団下校訓練の事前指導&引き渡し生徒は避難所設営訓練 ・ 集団下校訓練の実施 			
(3) 校外学習 (令和2年度 2学年)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 石巻市震災遺構大川小学校訪問 ・ 女川町訪問 (ハマテラス) ・ 旧女川中学校訪問 (いのちの石碑) 			
(4) ボランティア活動・地域連携			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長命館公園木材チップまき ・ 町内落ち葉掃き ・ 市民センター美術作品展示 ・ 登下校見守り 			
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること			
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。			
<input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。			
<input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。			
<small>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</small>			

仙台市立加茂中学校防災教育年間指導計画(第1学年)

【副】:副読本を活用できる内容

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳		
4	・自転車点検 ・路上テスト ・交通立番指導 ・校内安全点検	・実験器具の安全な取扱い(理) ・健康な身体(保体) ・世界と日本の山(社)	・避難方法と避難経路の確認	・集団行動と救急体制	・安全な登下校指導 ・通学路の確認 ・緊急メール確認	・ともに育つ【副】	
5	・交通立番指導 ・校内安全点検 ・校外街頭指導	・木工具の安全な使用方法(技)			・連休の過ごし方		
6	・交通立番指導 ・防災避難訓練 ・校内安全点検 ・校外街頭指導	・身のまわりの物質の変化(理) ・救急法(保体)		・地震発生時の避難方法【副】	・警報発令時の対応 ・市中総体時の災害発生への対応	・公共の精神 「楽寿号に乗って」	
7	・交通立番指導 ・校内安全点検 ・校外街頭指導 ・P地区巡視	・衣類(繊維)の燃焼実験(家)			・合唱コンクール時の災害発生への対応	・夏季休業中の過ごし方について	
8	・校内安全点検 ・校外街頭指導 ・P地区巡視				・文化祭時の災害発生への対応		
9	・交通立番指導 ・校内安全点検 ・校外街頭指導	・暴れ川を治める(国)				・生命の尊さ 「いのちって何だろう」	
10	・校内安全点検 ・校外街頭指導 ・地域防災訓練	・安全な作業(技) ・光、音、熱、力(理) ・火気の取扱いと安全点検(家)			・新人大会、体育祭時の災害発生への対応		
11	・防災避難訓練 ・交通立番指導 ・校内安全点検 ・校外街頭指導			・暖房器具の安全な取扱い方	・災害発生時の避難方法【副】	・自衛隊との合同訓練	
12	・校内安全点検 ・暖房開始 ・防犯子どもを守ろうデー	・大地は語る(理) ・大地が火をふく(理)			・安全な登下校(雪害)	・冬季休業中の過ごし方について	
1	・交通立番指導 ・校内安全点検 ・P地区巡視 ・校外街頭指導	・大地がゆれる(理) ・大地が動く(理)			・自転車通学路の冬季変更について		
2	・校内安全点検 ・校外街頭指導						
3	・復興プロジェクト ・交通立番指導 ・校内安全点検 ・校外街頭指導	・森林の役割(技)			・震災の教訓【副】	・春季休業中の過ごし方について ・自然愛護 「桜に集う人の思い」	

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 124
仙台市立愛子小学校		担当者 峯岸 大輔
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・学校：平成27年の錦ヶ丘小学校開校によって、児童数も落ち着き、学区も若干狭くはなったものの、東西に広がっている。1年間の訓練の中に「集団下校訓練」があったが、通学路が細かく分かれすぎていて、職員の数では児童の下校を把握しきれないこと、習い事や祖父母宅への帰宅等、緊急時のグループ確認の困難さから、「一斉下校訓練」へと変更している。 ・児童：素直で緊急時に落ち着いて行動する力は身につけているが、自ら考えて判断することができていない。他人を思いやり、協力する力を高める必要がある。災害についての経験がないため、実感がない。 ・保護者：引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、地域とのつながりに煩わしさを感じ、町内会や子供会などの行事には参加しない家庭もある。 ・地域性：災害の起こりにくい恵まれた地形となっている。非常に協力的で、外部講師等多くの支援をいただいている。町内会と都市整備局都心まちづくり課、市民センター、社会福祉協議会合同で防災訓練を行っており、令和元年度に愛子小学校も参加し、合同防災訓練を行った。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識を身につけ、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童の育成</p> <p>(共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童の育成</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント 地域と合同防災訓練の実施 避難訓練振り返り時の防災副読本の活用		
4 児童生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で訓練を実施することができなかった。 ・4年生が社会科の学習で荒浜小学校見学を行うことで、災害に対する理解、実感を深めることができた。 		
5 実践の具体 (1) 「地域と合同防災訓練」の実施→今年度は実施できず 令和元年度に、町内会、都市整備局都心まちづくり課、市民センター、社会福祉協議会、消防署等の方々のご協力をいただき、各学年で体験や見学（1・2年：初期消火訓練見学、3年：新聞紙でスリッパ作り、4年：DVDを活用した学習※雨天のため、5年：応急手当訓練、6年：救急救護訓練）を実施した。その後も継続を試みているが、コロナの影響により令和2、令和3年度は実施できなかった。 		
(2) 4年生社会科「地震からくらしを守る」 「震災遺構 荒浜小学校」へ校外学習を行った。実際に震災の影響を受けた校舎の様子や当時の様子を学ぶことで、震災の恐ろしさや備えることの大切さについて、理解を深めることができた。		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※1、2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

防災教育年間指導計画

愛子小学校 第4学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する周 辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的 な内容		防災や災害に関する間接的 な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道 徳	
4	避難訓練（避難経路 確認） 交通安全指導	・地震や津波から身 を守る （社会）			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ☆東日本大地震発生 （1章①）		
5	家庭訪問 一斉下校訓練						
6	引き渡し訓練 避難訓練 地域合同防災訓練				・避難訓練事前事後 指導 ☆災害が起きたら （4章①）		
7						・夏休みの生活	
8							「もっこ」をせお って （勤労、公共の精 神）
9					☆災害に備える （4章③）		
10				蕃山登山			
11	避難訓練（火災）				・避難訓練事前事後 指導 ☆災害から身を守る ために（4章②）		しょうぼうだんの おじいさん （感謝）
12		・県の広がりとくら し（社会）				・冬休みの生活	
1						☆震災を乗り こえて（5章④）	
2							走れ江ノ電 光の 中へ （生命の尊さ）
3				☆復興へ 今を力強 く（2章②）	☆防災知識をチェッ クしよう（6章①） ☆仙台の自然災害年 表・復興年表（6章③）		

☆新防災教育副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 39
仙台市立四郎丸小学校		担当者 目黒 広之
1 学校・地域の実態	➡	1・3
<p>○児童生徒：震災から10年が過ぎ、ほとんどの児童は震災当時の様子を覚えていない。学校や親、ニュースなどから震災に関する情報を見聞きすることはあるが、仙台市内の津波による具体的な被害を十分に理解している児童は少ない。</p> <p>○保護者：フリー参観日に引渡し訓練を行うことで、防災や災害時の下校の仕方等、その対応を理解している家庭が多い。一方で、町内会や子供会の行事に参加が後向きな家庭も多く、災害時の地域との連携が十分にはかれるか不安を抱えるケースも見られる。</p> <p>○地域性：海拔5メートル程度の平坦な地形で、名取川が学区北側に位置している。加えて、学区を横断するように九ヶ村堀が通っているため、過去には集中豪雨による床上浸水の被害を受けている。また、市の洪水ハザードマップでは水害による大きな被害を受ける可能性のある地域として指定されている。これまで数年間、学校と連合町内会が連携を取って夏季休業期間などに地域合同防災訓練を実施し、有事の際の対応について検討を重ねていたが、コロナ禍の影響により実施を見合わせている。</p> <p>○東日本大震災時の地域の状況：地域的に海に近く、本校は避難所として隣接の閉上地区等も含めた多くの避難者を受け入れた。ライフラインが止まっていたため、食料や水等を求め長蛇の列ができた。避難所運営は、町内会と学校が中心になって行ったがほとんど手探り状態だった。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・2・3
<p>(自助) 平常時から災害に備え、災害時に冷静に判断し、自らの命を守り、臨機応変に自らの安全を確保できる児童</p> <p>(共助) 平常時から進んで他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力し参画できる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「自助・共助のためにできることを自ら考える力を育む防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた防災学習により地域の危険箇所や防災施設等の特徴を知り、起こりうる災害についての基本的な知識を身に付け、自分にできることを具体的に考える場面が増えた。 ・震災遺構荒浜小学校を見学した児童は、震災の被害状況を見ることで、改めて被害の大きさを実感するとともに、当時を知る方の話を聞いて津波が来た時の様子や避難の仕方を詳しく知り、自分たちが他者にどう伝えていくべきかを考えることができた。 		
5 実践の具体		
<p>(1) 校舎改築工事期に対応した避難訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は昨年度より新校舎改築に向けた工事期にあるため、災害時の避難経路を昨年度の経路から変更している。工事の都合により、校地外に出ることを想定しての避難経路となり、避難にかかる時間が増えることが想定された。そのため、避難経路の距離が長く複雑であることを伝え、避難時間に目標を持たせた指導をしたことで、「押さない・走らない・喋らない・戻らない」を守り素早く避難することに対する児童・教員の意識が一層高まることとなった。 <p>(2) 総合学習における「震災遺構荒浜小学校」を活用した授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年総合「防災安全マップを作って発信しよう」の学習の一環として、震災遺構荒浜小学校を活用した授業を実施した。校舎内見学や津波被害当時の状況を聞くことで、自分にできることは何があるかを考え、津波による甚大な被害があったことを自分たちも伝えていきたいという思いを持つことができた。 		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		

防災教育年間指導計画

四郎丸小学校 第4学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	・避難経路確認 ・避難訓練(地震・津波・洪水) ・防犯聞き取り訓練 ・交通安全教室	・地震や津波からくらしを守る(社会)	防災安全マップづくり	・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	
5	・防犯聞き取り訓練 ・地区訪問		調べたことを発信しよう		
6	(・シェイクアウト訓練 ・原子力対応及びJアラート訓練)	すみよいくらしをつくる ・水はどこから(社会)	私たちにできることを探そう		
7	・引渡し訓練 ・全校防災授業 ・防犯教室(児童対象)	☆いろいろな自然災害 災害が起きたら(理科)	☆災害から身を守るために・防災マップを作ってみよう(4章②)	☆災害が起きたら ☆災害から身を守るために ☆災害に備える	・夏休みの生活
8					・地域行事への参加
9	・震災遺構荒浜小見学 ・避難訓練(地震・津波・洪水)		震災遺構荒浜小を見学しよう	・避難訓練事前事後指導	
10	・聞き取り訓練 ・避難訓練(休憩時、地震)	・県の広がりとからし(社会) ・きょうどのはってんにつくす(社会)	かっこ和太鼓隊	・避難訓練事前事後指導	
11	(・避難訓練(津波)) ・避難訓練(火災)		発見！四郎丸のヒーロー	・避難訓練事前事後指導	
12		・県の広がりとからし(社会)	鴉田新聞店コミュニティ紙		・冬休みの生活
1					
2					
3	・ふるさと復興朝会		備蓄用みそ作り	☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 237
仙台市立	広瀬中学校	担当者 伏谷 史郎
1 学校・地域の実態	➡	1
<p>・生徒：2011年当時には乳幼児であった本校生徒たちにとって、震災はすでに「誰かから聞いたこと」になりつつある。防災に関する知識も体験に基づくものではなく、どこか人事のように捉えている生徒も少なくない。近隣の小中学校が避難所になっていることは知っていても、学区内の災害危険箇所を知っている生徒はほとんど居ない状況である。</p> <p>・保護者、地域：宅地分譲が進み、旧宮城町からの住民よりも他地域より転入してきた方々の割合が増加している。それにとまって保護者の間でも地域の危険箇所等の理解が進んでいない可能性が考えられる。一昨年度までは町内会ごとに防災訓練が実施されていたが、感染症対策のためこの2年の間開催されていない。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1
<p>【自助】自分の身の回りの危険を予測し、回避する力とともに、事件・事故災害に遭遇した際に、被害を最小限にして、危険な状態を乗り切る生徒</p> <p>【共助】「災害安全」「交通安全」「生活安全」の知識を積み重ね、身の周りの危険について理解し、自ら進んで危険回避のための行動ができる生徒</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<p>・総合的な学習の時間を中心とした防災教育 ・震災の記憶風化の抑止（震災遺構訪問）</p>		
4 児童生徒の変容		
<p>災害に対する正しい知識を身に付けることが、自分や周りの人々の命を守ることに繋がると知り、防災学習の大切さに気付いた。また、住んでいる地域の災害危険箇所について関心を持つようになった。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 予告なしの形で避難訓練を実施</p> <p>6月と11月の2回避難訓練を実施したが、2回目の火災想定避難訓練は事前に生徒に予告をせず、抜き打ちの形で実施した。担任の授業ではなく通常の授業のコマを当てたため自分の教室ではない場所からの避難をする生徒もおり、避難完了にかなりの時間を要すると予想していたが、通常の訓練と遜色ないほどの短時間で避難が完了し、成果を上げることができた。</p> <p>(2) 「急な大雨から身を守ろう」(学級活動)の授業実践</p> <p>本校は学校のすぐ北側に広瀬川、学区の中心に斉勝川が流れており、積乱雲の急激な発達によるゲリラ豪雨時に被害が警戒される地域にある。また、本校北側には土砂災害危険箇所指定される斜面があり、本校が指定避難所となっている。積乱雲がもたらす大雨や落雷などの自然災害は、本校生徒が直面する可能性が極めて高いものと考え、気象庁編「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」DVDを活用した授業実践を1学年にて行った。授業の概要は以下のとおりである。</p> <p>(1) 登場人物の判断や行動についてどこが間違っていたのかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>(2) 生活班でグループを組み、意見を発表し合う。班の代表者が意見をまとめ、学級全体に発表する。</p> <p>(3) 解決編を視聴し、積乱雲に伴う自然災害から身を守る方法をまとめ、発表する。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<p><input checked="" type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。</p>		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

仙台市立広瀬中学校防災教育年間指導計画

第2学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活	道徳	
	4		安全な登下校指導と通学路の確認 (交通安全教室) 連絡網と引き渡しの確認 体育科(集団訓練) 放課後の通学指導 安全点検	集団行動 (保体)			
5	野外活動 (震災遺構見学等) 放課後の通学指導 安全点検	副読本(P38・39) 日本のさまざまな 自然災害と防災 (社会)	・副読本(P36・37) 「自分を守る」 ・副読本(P42・43) 「災害心理について 学ぼう」	野活事前指導 副読本(P4～7) 東日本大震災の被害 と復興への取組 状況を知ろう	気仙沼震災遺 構伝承館訪問 語り部体験	副読本(P60・ 61) 「東日本大震災 の記録」	
6	避難訓練(地震想定) 放課後の通学指導 安全点検	副読本(P32) 「古典に残る災害 を読んでみよう」 (国語)		副読本(P42・43) 「家庭でできる災害 の備え」	避難訓練 事前指導 事後指導		
7	夏季休業中の安全指導 二者面談 放課後の通学指導 安全点検	副読本(P41) 災害に強い部 屋を作ろう (技術)				夏季休業中の過ご し方 (災害時の確認)	
8	放課後の通学指導 安全点検						
9	放課後の通学指導 安全点検	副読本(P20・21) 副読本(P52・53) 火山の恵みと防災 の取り組み (社会)				副読本(P44・45)心 肺蘇生	副読本(P12・13) 「約束」 かけがいのない命
10	放課後の通学指導 安全点検	副読本(P26・27) 3.11の地震を科 学の目でとらえよ う(理科)					
11	避難訓練(火災想定) 合唱コンクール 放課後の通学指導 安全点検	話し合って考えを広 げよう(国語)※新聞 記事から気になる テーマ		災害後の人災 の備え	避難訓練 事前指導 事後指導		副読本(P54・55) 心に寄り添う
12	放課後の通学指導 安全点検					冬季休業中の過ご し方 (災害時の確認)	
1	放課後の通学指導 安全点検	副読本(P46・ 47) 心の健康 (保体)			副読本(P40・41) 家庭でできる災 害への備え		
2	放課後の通学指導 安全点検						
3	放課後の通学指導 安全点検 修了式					春季休業中の過ご し方 (災害時の確認)	

仙台市立 八乙女小 学校

担当者 芳賀 淳志

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・**児童生徒**：震災から10年が過ぎ、6年生でも震災の記憶が残っている児童はほとんどいない。学校での防災教育の取組や保護者から聞く話、テレビなどを通して、震災についての情報を得てはいるものの、防災についての正しい知識を十分に身につけているとは言えない。しかし、防災に対する意識は高く、普段から非常放送をしっかりと聞いたり、真剣に避難訓練に取り組んだりする姿が見られる。
- ・**保護者**：引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、地域とのつながりに煩わしさを感じているためか、町内会や子供会に所属していない家庭もある。
- ・**地域性**：各町内会での防災訓練・連合町内会での防災訓練・学校を含めた地域合同防災訓練と3年サイクルで、いろいろな方法で防災訓練を実施する計画となっているが、感染症への不安もあり、なかなか計画どおりに実施できていない。
- ・**学校**：東日本大震災後に教職に就いた教員も多く、教職員間でのOJTを実施し、震災についての理解を深め、指導に当たっている。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・3

- (自助) 平常時から災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、自らの安全を確保できる児童。
- (共助) 平常時から人とのつながりを大切に考え、非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「教科等横断的な防災教育」「児童の問い(思い)に寄り添った総合的な学習の時間【防災】」

4 児童生徒の変容

- ・出前授業や総合的な学習の時間などを通して、震災当時の様子を詳しく知ることができた。防災について自分が興味を持ったことを調べ、交流し、考えを深めることができた。(3年)
- ・ハザードマップを見て、自分たちの地域でも災害は起こりうるという意識を持つことができた。

5 実践の具体

(1) 「震災遺構荒浜小学校」出前授業(3年:総合的な学習の時間)

3年生が総合的な学習の時間に防災の学習をしている。その中で、子供たちが防災について少しずつ調べ、考えてきたタイミングで、荒浜小学校で校長先生をされていた川村孝男先生にお話していただいた。そのおかげで、さらに子供たちが防災について考えたいという意欲を持つことができた。

(2) 八乙女防災カルタに挑戦しよう!(全校)

3年生が総合的な学習の時間に学んだことを全校へ発信した。今年度は防災カルタに全校で取り組んだ。



(3) たく生き授業プラン「本当に災害って起こるの?」(学級活動)の授業実践

全校で実施できる授業プランを考え、先行実施した。地域の実態把握のために防災ハザードマップを確認し、災害は自分たちの地域でも起こる可能性があるということの子供たちは真剣に考えることができた。避難訓練の事前指導として実施した。

6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について: 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用
3 東日本大震災の体験者からの講話等, 震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災教育年間指導計画

八乙女小学校3学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度
学習内容		防災や災害に関する周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	防災教育関連行事\教科・領域	教科・総合	特活	道徳※
4	避難経路の確認 聞き取り訓練（放送） 交通安全教室	社 学校のまわり（知）	・避難経路の確認	1「やさしい人大さくせん」 (思いやり・親切)（態）
5	不審者対応訓練	社 学校のまわり（知） 総 まちを探検しよう（知） 【南光台方面 町探検】		5「耳の聞こえないお母さんへ」 (家族愛)（態）
6	避難訓練 (地震・引渡訓練) 集団下校訓練	社 市の様子（知） 総 身近な防災について調べよう（知） 【泉図書館防災パッケージ】 【Chromebookで調べ学習】	・避難訓練事前事後指導 (技)	
7			●自分でできる(4章④) (技) ・夏休みの生活(態)	11「ごみステーション」 (ボランティア活動)（態）
8				
9		総 身近な防災についてまとめよう(知) 【荒浜小学校 出前授業】 ●地しんについて知ろう(3章①)(知)	●家ぞくぼうさい会ぎをひらこう(4章⑤)(技)	
10		社 火事からくらしを守る(知)		19「いただいたいのち」 (生命の誕生)（態）
11	避難訓練(火災)	総 身近な防災についてまとめよう(知) 【松島少年自然の家 出前授業】	・避難訓練事前事後指導 (技)	●大切なこと(2章⑥) 25「ことぶき園に行ったよ」 (ボランティア活動)（態）
12		社 事故や事件からくらしを守る(知) 総 自分たちにできることを考えよう(知)【学年発表会】	・冬休みの生活(態)	26「ぼくのおばあちゃん」 (家族愛)（態）
1		総 自分たちにできることを考えよう(知)【防災かるた】 ●せかいとのつながり(5章①)(知)		
2		社 市の様子のうつりかわり(知)	●わたしたちにできること(5章⑤)(技)	34「おじいちゃん、おばあちゃん、みていてね」(生命の誕生) (態)
3	故郷復興プロジェクト (朝会・歌…放送)			

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 29
仙台市立 小松島小学校		担当者 吉田 和人
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：近年発生した自然災害では、時間や場所の条件から、困難や恐怖を感じた児童は少ない。そのため、災害発生時に自分で自分の身を守るという意識があまり身に付いていない。 ・保護者：災害に対する意識は、高いとは言えない。地域・学校共催の指定避難所への避難訓練について、保護者の参加を呼び掛けているが、参加者数が伸びていない。 ・地域性：連合町内会が防災体制や地域づくりの主となり、精力的な活動をしている。ただし、担い手の世代交代が思うように進んでおらず、高齢化が課題となっているため、児童に対して将来の地域の担い手としての期待が高い。 ・東日本大震災時の地域の状況：地理的に仙台市中心部の北の端にあたるため、市北部への帰宅困難者が本校に数百人集まってきた。そのため、地域の中で避難所の運営を担当したり協力したりする人員が避難者数に対して不足してしまい、対応に大変な苦労があった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1 - 3
<p>【自助】 平常時から災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童</p> <p>【共助】 平常時から進んで他の人や地域の力となれる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・平常時から自然災害に対する意識を高める防災教育 		
4 児童生徒の変容		
<p>全学年対象の「防災スキルタイム」の学びを通して、知識などを身に付けるほかに、身の回りの災害リスクを意識できるようになってきている。「火災」に関する指導後に「自分の家でもコンセントまわりを確かめてみた」と話す児童が何人もいた。また、6学年では、学級活動の中で災害に関してテーマを設定して、ポスターやパンフレット形式にまとめるなど、防災に関する学習に発展させた。</p> <p>5学年児童は、総合的な学習の時間の実践を通して自助・共助の視点を持つことができるようになってきた。一人一人が作成した新聞に、「災害はいつ起こるか分からないので備えておかなければならない」「自分の命を守るだけでなく、家族の避難の方法もきちんと話しておかなければならない」とまとめている児童が見られるなど、自分にできることを考え、表現するようになってきた。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 朝の活動の時間「防災スキルタイム」（全学年）の実施</p> <p>年に6回、朝の活動の時間を活用した「防災スキルタイム」を実施し、災害への事前の備えや対応、避難の仕方について指導を行っている。6年目になる取組である。水の事故や地震など、時期を考慮した災害をテーマとして、防災主任が作成したスライドを基に全学級一斉の指導を行った。</p> <p>(2) 「守ろう いのちとくらし」（5年 総合）の実践</p> <p>5学年は、総合的な学習の時間の実践として取り組んだ。自然災害が起こった時の危険予測と身の守り方を考え、話し合いを通じて理解を深めながら学習を進めた。また、東日本大震災を題材に、地震発生のメカニズムや被害状況について学んだ。震災遺構「荒浜小」の見学では、災害からの立ち直りや同じ災害が起こった時の身の守り方や町づくりについての考えに触れた。家族へのインタビューを通して、当時、生まれたばかりの自分たちを地震から大人がどのように守ってくれたのかを知り、日頃の「備え」の大切さについて学ぶとともに、自分にできることを考えることにつなげた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

防災教育年間指導計画

小松島小学校

第5学年

防災対応力の構成要素	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
平常時における「防災」 ＋ 災害時における「災害対応」	災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害について理解し、災害時に危険を予測し安全を確保することができるようにすると共に日常的な備えができるようにする。	災害における危険を認識し、適切な意思決定や行動選択等、的確な思考・判断ができるようにする。	平常時から、思いやりや感謝の心を醸成し、進んで他の人や地域と関わり、助け合い、支え合うことを通して、災害発生時などに人として取るべき行動の根底となる心や態度を育む。

学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合的な学習の時間	特別活動	道徳科	
4	・朝の交通指導① ・避難訓練(避難経路確認) ・避難訓練(地震)	・始めてみようクッキング(家庭科)	<p>「守ろういのちとくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの自然の良さ と災害 ・こんなときどうする？ ・東日本大震災を知る ・震災遺構「荒浜小」見学 ・震災からの復興。町づくり ・日頃の備え ・自分にできること 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 	☆歩み出す 力強(1章②)	
5		・国土の地形の特色と人々のくらし(社会)		<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習での行動・野外活動(学活) 		
6	・避難訓練(地震) ・引渡訓練	・けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦:体育)		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥) 		
7	・防災スキルタイム(地震)	・水泳学習(体育)			夏休みの生活・夏の安全(学活)	☆希望の詩～「ない」～(2章①)
8	・朝の交通指導②(地域行事への参加)		<ul style="list-style-type: none"> ・野外活動時の災害発生への対応 自然災害リスク・助け合い 	地域行事への参加	・2(3)友情・信頼	
9	・防災スキルタイム(台風) ・5年野外活動	・着衣水泳(体育) ・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③:理科)				
10	・地域合同防災訓練(R3は中止) ・防災スキルタイム(10月 家庭からの避難)	・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合って(4章⑧:体育)		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭からの避難 ・緊急時対応(通報等)訓練 	・3(2)自然愛・環境保全	
11	・避難訓練(火災) ・防災スキルタイム(火災)			<ul style="list-style-type: none"> ☆立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト(2章④) ・避難訓練事前事後指導 		
12		・情報化した社会とわたしたちの生活(社会) ☆災害時の情報手段(3章④:社会)			冬休みの生活・冬の安全(学活)	・3(1)生命尊重
1	・朝の交通指導③ ・防災スキルタイム(災害への備え・地震)					
2	・防災スキルタイム(まとめ)				☆Heroes 2011 Japan(5章⑤)	
3	・復興プロジェクト	・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:理科)		<ul style="list-style-type: none"> ☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) 	春休みの生活	

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号501
仙台市立 鶴谷特別支援 学校		担当者 主幹教諭 早坂敬也
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は知的発達に課題がある小学1年生から高等部3年生までの児童生徒が通う支援学校である。小学部56名、中学部33名、高等部58名、合計147名が通う仙台市立唯一の支援学校である。本校は指定避難所ではない。学区が仙台市全域のため、自宅で災害にあった場合、居住地域の指定避難所に避難することになる。ただし、慣れない環境や不自由な生活によって、指定避難所では生活が困難な児童生徒を本校で受け入れることができる。東日本大震災や他の災害等で本校に避難した児童生徒はいない。 ・本校の児童生徒の実態や、施設環境に合わせた防災教育を行っている。 ・近隣の学校や地域住民との合同訓練等は行っていないが、同じ敷地内にある施設との合同訓練等は毎年計画している。(コロナウイルス感染防止や荒天等の理由で、4年間行っていない。) 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・3
<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する基本的な知識と対処方法を身に付け、自らの安全を確保したり、大人と一緒に落ち着いて行動したりできる児童生徒。 ・周囲の人々と助け合い、自分のできることを積極的にしようとする児童生徒。 		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で多く行い、防災意識を蓄積 ・小中高の系統性 ・分かりやすい学習内容と教材教具 		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・年間8回予定されている防災学習を毎年繰り返すことによって、防災への意識が高まっている。 		
5 実践の具体		
<p>①4月:火災の避難訓練 ②4月:防災タイム1ヘルプカードの使い方 ③6月:地震の避難訓練 ④6月:引き渡し訓練 ⑤9月:防災タイム2台風について ⑥10月:4施設合同避難訓練 ⑦11月:防災タイム3緊急地震警報 ⑧防災タイム4 4休みの避難</p> <p>(1)「火事から身を守ろう」「地震から身を守ろう」(学級活動)の授業実践 4月と6月に全校児童生徒が校庭に避難する訓練を行った。児童生徒がどう避難するかとともに、教職員が自分では移動が難しい児童生徒をどのように避難させるか具体的に共通理解する良い機会になった。児童生徒は2回とも落ち着いて静かに訓練に参加できた。次年度は地震の避難訓練後すぐに保護者へ引き渡す訓練を行うことで、児童生徒がより実際に近い状況を理解できるようにする。</p> <p>(2)防災タイム3緊急地震速報「音を聞いて身を守ろう」(生活単元学習)の授業実践 緊急地震速報を聞いて、机の下に潜り、「ダンゴムシのポーズ」をとって身を守る訓練を行った。毎年1回行っている。不安になる児童生徒はほとんど見られず、落ち着いて参加できる様子が多く見られた。更に自分から進んで身を守る行動ができる児童生徒が見られ、成長が感じられた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 □ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 □ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
<p>※1, 2の□の番号について: 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等, 震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

防災教育年間指導計画

令和3年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】	災害に関する基本的な知識と対処方法を身に付け、自らの安全を確保したり、大人と一緒に落ち着いて行動したりできる児童生徒
【共助】	周囲の人々と助け合い、自分のできることを積極的にしようとする児童生徒

令和3年度 防災教育年間指導計画

学習内容・指導内容				
月	学 部	小学部	中学部	高等部
	学部の目標 防災教育 関連学校行事	身の回りの危険について知り、大人の指示を聞いたり、大人と一緒に手をつないで行動できるようにする。	身近な災害や事故について知り、近くの大人の指示に従い、周りの友達や先生たちと一緒に安全で適切な行動がとれるようにする。	災害や事故発生時に、近くの大人に助けを求めたり、集団で一緒に行動したりして、自ら安全で適切な行動がとれるようにする。
4	校内の危険箇所や避難経路の確認 避難訓練①（火災） 災害時食料オムツの保管 防災タイム① 「ヘルプカードの使い方」	<ul style="list-style-type: none"> 先生と一緒に校内を散策しよう 先生と一緒に避難しよう ヘルプカードを見てみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に注意して、避難経路を歩いてみよう 「おはしも」の約束を確認して、落ち着いて避難しよう ヘルプカードを自分でかばんから出してみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路を確認しよう 「おはしも」の約束を確認しよう 放送や指示を落ち着いて聞いて避難しよう ヘルプカードを使って助けを求めよう
6	避難訓練②（地震） 引き渡し訓練	<ul style="list-style-type: none"> 先生と一緒に静かに避難しよう 先生と一緒にお家の人を待とう 	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時は頭を守ろう 非常階段を降りてみよう 大規模災害時の行動の仕方を体験しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 地震から自分の身を守ろう 非常階段を安全に降りよう 大規模災害時の行動の仕方を理解しよう
7	もうすぐ夏休み	【夏休みの安全な過ごし方】 ・危険な遊び場所を確かめよう	【夏休みの安全な過ごし方】 ・危険な遊び場所を確認しよう	【夏休みの安全な過ごし方】 ・危険な遊び場所等を確認しよう
8		(夏休み中の事故等の確認)	(夏休み中の事故等の確認)	(夏休み中の事故等の確認)
9	防災タイム② 「台風について」	<ul style="list-style-type: none"> 台風について知ろう 非常階段を通ってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 台風の日の約束を確認しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 台風の日の過ごし方を確認しよう
10	避難訓練③(4施設合同)	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時は頭を守ろう お口を隠して避難しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時は頭を守ろう 口元を覆って避難しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時は頭を守ろう 煙を吸い込まないように口元を覆い、姿勢を低くして避難しよう
11	防災タイム③ 「緊急地震速報」	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞いてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞いて避難しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞いて、落ち着いて避難しよう
12	防災タイム④ 「昼休みの避難」 暖房の使用	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みに避難をしよう 暖房器具のやけどや火事に気を付けよう 【冬休みの安全な過ごし方】 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みに放送を聞いて、近くの先生と一緒に避難しよう 暖房器具のやけどや火事に気を付けよう 【冬休みの安全な過ごし方】 凍った道路に気を付けよう 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みに放送を聞いて落ち着いて避難しよう 暖房器具の注意事項を守ろう 【冬休みの安全な過ごし方】 凍った道路に気を付けよう
1		(冬休み中の事故等の確認)	(冬休み中の事故等の確認)	(冬休み中の事故等の確認)
2	災害時保管食料の交換	<ul style="list-style-type: none"> 安全に雪遊びをしよう（雪遊び会） 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に雪遊びをしよう（ウインタースポーツ） 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に冬のレクリエーションを楽しもう（冬レク）
3	災害時保管食料・オムツの返却 (高3は卒業式当日)	【春休みの安全な過ごし方】	【春休みの安全な過ごし方】	【春休みの安全な過ごし方】

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 125
仙台市立富沢小学校		担当者 阿部広太郎
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童：児童数は多いが、半数以上が東日本大震災を経験していない。そのため、震災の記憶が風化しつつある。学校の授業やテレビのニュースなどから震災の情報を断片的に得ることはあるが、上学年の中でも当時の状況を具体的に理解している児童は少ない。 ・保護者：2年ぶりに実施した引き渡し訓練には8割以上の保護者が参加した。従来の方法から大幅な変更があったが、学校からのお知らせをよく読み訓練の内容を理解して参加するなど、学校の教育活動には日頃から協力的な家庭が多い。 ・地域性：大きな町内会が二つあり、どちらも防災に対しての意識は高い。コロナ禍のためここ数年は学校と合同の防災訓練は行っていないが、実施に向けての打合せや主要役員のための訓練などを適宜実施している。 ・東日本大震災時の地域の状況：揺れは大きかったが家屋倒壊等の大きな被害はなく、ライフラインの復旧も早かった。避難所を利用せず、自宅で過ごす家庭も多かった。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2 - 3
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童</p> <p>(共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識を高める防災教育 ・教科等の学習活動で取り組む防災教育 		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際に、児童が素早く整然と行動するようになってきた。避難完了後も次の指示を聞くために静かに待機するなど、真剣に避難訓練に取り組もうとする態度が育ってきている。 ・自然災害について調べたり震災遺構荒浜小学校を見学したりすることを通して、これまで実感が伴っていなかった防災のことを自分事として考えようとする意識が高まった。 		
5 実践の具体		
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 11月の訓練は、大きな地震の直後に停電になり、校内放送が使えないという想定で実施した。児童は特に混乱した様子もなく、拡声器による指示に従って冷静に行動することができた。 ・理科 5年「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」 台風や川の増水による災害とそれらに対する備えについて、ハザードマップを活用しながら自分たちの地域でどのような災害が起きそうか話し合い、自分たちにできることを考えた。 ・総合的な学習の時間 5年「みんな de まなぼうさい」 どのような自然災害があり、命を守るためにはその場でどうしたらいいのかを考え、学級で意見を交流した。震災遺構荒浜小学校を見学し、これまで知識としては知っていた程度であった東日本大震災について当時の状況を詳しく学び、防災は決して他人事ではないという意識を持つようになった。 		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※ 1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

防災教育年間指導計画

富沢小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	関連行事等						
4	・集団下校訓練 ・交通安全教室				・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す 力強く(1章②)	
5	・復興プロジェクト ・防犯訓練 ・(家庭訪問)				・集団下校のための縦割活動		
6	・避難訓練(地震)	・けがの防止 (体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦):体育)			・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥)		
7	・引き渡し訓練 ・避難訓練(弾道ミサイル) ・復興プロジェクト	・できるように なったかな家庭の仕事(家庭)				・夏休みの生活	☆希望の詩～ 「ない」～(2章①)
8	(地域行事への参加)					・地域行事への参加	・2(3)友情・信頼
9		・着衣水泳(体育) ・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③):理科)		・野外活動時の災害発生への対応			・3(2)自然愛・環境保全
10		・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合っ て(4章⑧):体育)		・避難所設営補助	浸水と避難		
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)				☆立ち上が れ!ぼくらの復興プロジェクト (2章④) ・避難訓練事前事後指導		・3(1)生命尊重
12		・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3章④):社会)				・冬休みの生活	
1							
2						☆Heroes 2011 Japan(5章⑤)	
3		・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②):社会)			☆防災知識を チェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活	

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 110
仙台市立虹の丘小学校		担当者 佐々木 遥平
1 学校・地域の実態	➡	1, 2, 3
<p>児童生徒：震災を実際に体験したことがない児童が多く、東日本大震災が起きた当時のことを知らない児童がほとんどである。</p> <p>保護者：引き渡し訓練や授業参観など参加者は多く協力的な家庭が多い。また、学校行事へのボランティアも積極的に引き受けてくれる。</p> <p>地域性：学校との合同訓練などは行っていない。学区内に土砂災害警戒区域があり、学校は地域の避難場所に指定されている。</p> <p>東日本大震災時の地域の状況：一部損害の家屋があったが、地域的に家屋への被害は少なかった。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2, 3
<p>(自助) 自ら考え判断し、行動する力</p> <p>(共助) 他者に対する思いやりや助け合いの心</p>		
<p>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</p> <p>学校独自の「ぼうさいタイム」を活用した仙台版防災教育年間指導計画の実施</p>		
<p>4 児童生徒の変容</p> <p>避難訓練の事前指導と事後指導を充実させたことで、避難行動が適切に行えるようになった。震災遺構荒浜小学校の見学を通して、防災に対する興味関心を持つ児童が多くなった。</p>		
<p>5 実践の具体</p> <p>○ぼうさいタイム</p> <p>年に8回のぼうさいタイムを実施している。ぼうさいタイムとは、朝活動の時間に、防災に関する学習に取り組むものである。各避難訓練に合わせて時間を設けてあり、事前指導や事後指導の充実を図っている。事前事後指導以外にも、仙台版防災教育副読本「3. 11から未来へ」を用いて東日本大震災に関する学習や防災バックや震災が起こる仕組みなどの学習にも取り組んでいる。また、今年度は学区内に土砂災害警戒区域があることから、土砂災害に関する学習と避難の方法についても取り組んでいる。</p> <p>避難訓練の振り返りには、わたしたちの安全を用いて避難訓練の自己評価を蓄積している。自分の行動を振り返る良い機会になっている。また、災害はいつ起きてもおかしくないことを改めて確認して、災害に備えることの大切さも合わせて指導している。</p> <p>○5年生における総合的な学習</p> <p>5年生の総合的な学習では、東日本大震災をテーマに学習を進めている。その中で震災遺構荒浜小学校の見学を取り入れている。見学を通して感じたことや学んだことから、さらに詳しく知りたいことを調べる。そのことから自分たちにできることを考えて、保護者に対して発表する場を設けている。保護者に伝えることは、家庭で防災について考えるきっかけにもなっている。</p>		
<p>6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること</p> <p><input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。</p>		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

虹の丘小 防災教育年間指導計画

小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳	
	関連行事等					
4	<ul style="list-style-type: none"> 一斉下校, 引き渡し方法の確認 交通安全教室(4/14) 防災タイム①防犯ブザーと教室施錠確認(4/26)不審者対応研修(職員) 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの国土【社会】 天気の変化【理科】 		<ul style="list-style-type: none"> 登下校の安全 避難経路の確認 非常時下校体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ☆歩み出す力強く(1章②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも全力で
5	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム②避難経路の確認(5/7) 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの国土【社会】 		<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の行動 一斉下校の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者が侵入した際の手順の説明 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム③(6/23) 避難訓練(地震) 引き渡し下校訓練(6/25) 《県民防災の日》 	<ul style="list-style-type: none"> けがの防止【体育】 		<ul style="list-style-type: none"> 地震避難訓練 事前事後指導 雨の日の過ごし方 ☆災害時をくらすヒント(4章④) 		<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが残したもの
7	<ul style="list-style-type: none"> 業間の避難訓練(7/3)《国民安全の日》 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったかな 家庭の仕事【家庭】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆災害に強いまちづくりを目指して(2章③) 		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ☆希望の詩～「ない」～(2章①)
8	<ul style="list-style-type: none"> (地域夏祭りへの参加) 				<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加 	
9	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム④10月のJアラート訓練について避難場所確認(9/15) 	<ul style="list-style-type: none"> 台風と天気の変化【理科】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆広がれ, つながれ, みんなの思い(5章④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野外活動時の災害発生への対応 		
10	<ul style="list-style-type: none"> 業間のJアラート避難訓練(10/7) 	<ul style="list-style-type: none"> 流れる水のはたらき【理科】 ☆津波のメカニズムと災害(3章①:理科) 		<ul style="list-style-type: none"> ・避難所設営補助 		<ul style="list-style-type: none"> ・わたしのボランティア体験
11	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム⑤(11/10) 避難訓練(火災)(11/18) 			<ul style="list-style-type: none"> ☆立ち上れ!ほくらの復興プロジェクト(2章⑤) ・火災避難訓練 事前事後指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・コースチャぼうやを救え
12	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム⑥(12/1) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を生かすわたしたち【社会】 ☆災害時の情報手段(3章③:社会) 	<ul style="list-style-type: none"> 震災遺構荒浜小学校訪問 		<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの過ごし方 	
1	<ul style="list-style-type: none"> 防災タイム⑦(1/12) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆心と向き合って(4章⑦:体育) 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の防災教育「評価」 防災タイム⑧(2/22) 	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康【保健】 				
3		<ul style="list-style-type: none"> 自然災害を防ぐ【社会】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) 		<ul style="list-style-type: none"> ・春休みの過ごし方 	

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 266
仙台市立錦ヶ丘中学校		担当者 及川 基
1 学校・地域の実態	➡	1・2・3・5
<p>・児童生徒：震災当時は2歳くらいだったため、被災した記憶が残っている生徒はほとんどいない。震災に関連する情報については、保護者から当時の状況を伝え聞いており、防災に関心を持つ生徒も多い。災害に備えている家庭は多いが、被災地（沿岸）を訪れたことのある生徒は少ない。</p> <p>・保護者：共働き世帯が多いものの、学校行事等を始めとした本校の教育活動への関心は高い。</p> <p>・地域性：平成に入ってから、人口増加が進んでいるニュータウンである。新興住宅地であることから、地域における住民同士の関わりは少ないと考えられる。各町内会では、必要に応じて防災訓練を実施しているが、学校と連携した訓練は行っていない。学校としては、地域との合同防災訓練等を目指している。</p> <p>・東日本大震災時の地域の状況：震災当時は、地震による被害が主であったが、大きな被害は受けていない地域である。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・2・3・5
<p>(自助) 自分の身の回りの危険を予測し回避する力を養うとともに、事件・事故・災害に遭遇した際に、被害を最小限にして、危険な状態を乗り切ることができる生徒。</p> <p>(共助) 他者の安全に配慮するとともに、地域の一員として自分の住む地域安全のために、互いに助け合い協力することができる生徒。</p>		
<h3>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</h3> <p>総合的な学習を中心とした、教科横断的でリアリティのある防災教育の実践。</p>		
<h3>4 児童生徒の変容</h3> <p>(自助) 各種の災害発生のメカニズムと起こりうる被害について学んだことにより、落雷や地震が起きた際にも、身の回りの危険を予測し、回避するための行動をとろうとする姿が見られた。</p> <p>(共助) 被災地訪問(校外学習)の際に、住民の方々が助け合ったことで震災の被害を抑えることができたという話を聞き、地域住民と協力してくことの重要性について、一層理解を深めていた。</p>		
<h3>5 実践の具体</h3> <p>(1) 家庭の防災対策について家族と確認する。(減災推進課：「わが家と地域の防災チェック表」)</p> <p>(2) 災害について知る。(土砂災害・洪水、津波、地震、落雷の発生メカニズムと被害、対処方法)</p> <p>(3) 災害心理について学ぶ。(正常性バイアスと危険性)</p> <p>(4) 震災講話を聞く。(佐藤淳一前校長による雄勝中学校での経験を聞き、被災者の思いを知る)</p> <p>(5) 大川小学校と訪問する被災地についての学習、事前レポートの作成(女川、雄勝、南三陸)</p> <p>(6) 校外学習の実施と事後レポートの作成(新聞形式のレポート)</p> <p>(7) 消防署員による応急救命講習の実施(仙台市宮城消防署と連携)</p> <p>(8) 復興ソングの継承(「仲間とともに」)</p> <p>(9) 避難訓練の実施(地震想定・火災想定)</p>		
<h3>6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること</h3> <p><input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。</p> <p><input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。</p>		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

仙台市立錦ヶ丘中学校防災教育年間指導計画

第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
	4					安全な登下校指導と通学路の確認 引き渡しの確認 安全点検	・情報社会の技術を見てみよう(技術) ・集団行動(保体)
5	安全点検			・各種災害についての学習		・我が家の防災対策チェック	
6	避難訓練(地震想定) 中総体 安全点検	・欲求やストレスへの対応(保体)		・各種災害についての学習 ・災害心理についての学習 ・防災検定	・避難訓練の事前・事後指導 ・中総体における災害発生時の対応		・「ぼくのふるさと」
7	夏季休業中の安全指導 教育相談 安全点検 合唱コンクール			・防災検定答え合わせ ・防災検定解説 ・各種災についての学習	・合唱コンクールにおける災害発生時の対応	・夏季休業中の過ごし方(災害時の確認)	
8	教育相談 安全点検				・家庭でできる災害への備え		
9	安全点検 桜花祭	・「空を見上げて～女川町」(国語)	・震災講話 ・大川小学校について ・訪問先の情報について学ぶ		・桜花祭における災害発生時の対応		・「いのちって何だろう」
10	安全点検 新人大会 天文台学習		・校外学習の事前学習		・新人大会における災害発生時の対応 ・天文台学習における災害発生時の対応		・「決断！骨髄バンク移植第一号」 ・「一打一打に、魂をこめて。」(雄勝) ・「生命を守るために」(南三陸)
11	避難訓練(火災想定) 安全点検 教育相談 校外学習(被災地訪問)		・校外学習の事前学習 ・校外学習本番 ・校外学習の事後学習	・校外学習時の災害発生への事前指導	・避難訓練の事前・事後指導		・「あなたはひかり」 ・「大川小の悲劇から学ぶ」
12	安全点検	・情報セキュリティ(技術) ・ストレスへの対処と心の健康(保体)	・校外学習の事後学習			・冬季休業中の過ごし方(災害時の確認)	
1	安全点検	・ブラジルに見る環境問題(社会)	・校外学習の事後学習 ・応急救命講習				
2	安全点検	・火山の恵みと防災の取り組み(理科)				・我が家の防災対策チェック(2)	・「火の島」
3	鎮魂の日 安全点検 卒業式	・自身と災害(理科) ・健康で安全な住まい 災害への備え(家庭科)	・復興ソング歌唱 ・英語で人助け			・春季休業中の過ごし方(災害時の確認)	・「見沼に降る星」 ・「桜に集う人の思い」

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 58
仙台市立袋原小学校		担当者 佐藤 典昭
1 学校・地域の実態	➡	1・2・3・4
<p>・児童生徒：児童は、震災時は乳幼児、もしくは生まれていなかったために、震災における災害については、先生や保護者から話を聞いたことがあるという程度である。そのため、災害を身近なものとして感じていない部分が多い。また、コロナ禍で地域防災訓練が中止となるなど、防災意識もやや薄れてきている。</p> <p>・保護者：保護者は学校づくりに参画していこうという意識が高く、引き渡し訓練への参加率も高い。</p> <p>・地域性：学区が広く、都市計画道路の整備により、宅地化が進んだという歴史がある。そのため、児童数が多いという現状にある。保護者と同様に、地域も学校づくりに参画したいという意識が高く、PTA、町内会等の活動が活発である。また、町内会合同での避難訓練を実施している。</p> <p>・東日本大震災時の状況： 震災時は地域住民が約1300名本校の校舎や体育館に避難した。また、校舎の内壁・外壁が多数損傷した。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・2・3・4
<p>(自助) 平常時から災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童</p> <p>(共助) 平常時から進んで他の人や地域の力となれる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「日常生活や、各教科との関連を図った防災教育の推進」		
4 児童生徒の変容		
<p>・震災遺構の荒浜小学校の見学を通じて、震災被害の大きさや震災発生時の対応方法について、自分のこととして捉えるきっかけとなった。</p> <p>・各教科と関連させた横断的な防災教育を行うことによって、災害を身近なものとして意識し、避難訓練に取り組むようになった。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 「震災遺構荒浜小学校」の見学（5年生）</p> <p>6月に震災遺構の荒浜小学校の見学を実施した。子供たちは、語り部さんの説明を聞き、被害を受けた校舎の様子を実際に見ることで、東日本大震災に伴う津波被害の甚大さ、恐ろしさを感じていた。同じ仙台市内の学校が被災したという事実から、「自分たちにも起こりうること」であると実感できた。</p> <p>(2) コロナ禍における避難訓練、引き渡し訓練の実施（全学年）</p> <p>大規模校である本校において、コロナ禍の状況における避難訓練の実施は大きな課題であった。昨年度は実施できなかったが、今年度は、2学年ごとに日を分けて実施した。改めて、非常時の行動確認を行う重要性を学び、その後の各教科における防災教育を自分ごととして学ぶことにつながっている。</p> <p>また、引き渡し訓練についても、時間差をつけて実施する工夫を行いながら実施した。各家庭との連携を図ることができた。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

令和3年度 袋原小 防災教育年間指導計画

第5学年

目指す児童の姿（高学年）→日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を解し、安全な行動ができる。
自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りし、協力し合える。

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度			
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容			
月	教科・領域 関連行事	教 科	総 合				
			【私たちを取りまく 環境を見つめ直そう】	特 活			
		道 徳					
4	避難経路/危険箇所確認 防犯子供を守ろうデー 聞き取り訓練 避難訓練（地震） 1年交通教室 自宅確認	わたしと家族 の生活（家 庭） 天気の変化 （理科）		・登下校の安全 ・避難経 路の確認 ・非常時下校 体制の確認	☆歩み出す力 強く（1章 ②）		
5	防犯子供を守ろうデー 運動会（学年ごと） 防犯ボランティア紹介式	はじめてみよ うクッキング （家庭）	・田植え体験	災害時をく らすヒント4-⑥			
6	防犯子供を守ろうデー 修学旅行 引渡訓練	やってみよう 家庭の仕事 （家庭）	・食について 考えよう ・震災遺構荒 浜小学校見学	・避難訓練事 前事後指導	7. ひさの星 （感動、畏敬 の念）		
7	防犯子供を守ろうデー 復興折り鶴作成	けがの防止 （保健）			・野外活動 ・夏休みの生 活	11. おばあ ちゃんが残し ていったもの （生命の尊 さ）	
8	(地域行事への参加)				地域行事への 参加		
9	防犯警報訓練 防犯子供を守ろうデー 野外活動	台風と天気 の変化（理科） 着衣水泳（体 育）	・稲刈り体験				
10	防犯子供を守ろうデー （3・4年交通教室）	流れる水の働 き（理科） 津波のメカニ ズムと災害） 副読本）	・仙台再発見	避難所設営補 助			
11	防犯子供を守ろうデー 津波避難訓練	情報化した生 活とわたした ちの生活（社 会）		野外活動時の 災害派生への 対応	☆立ち上が れ！ぼくらの 復興プロジェ クト（2章 ④）	21. わたし のボランティア 体験（勤 労・公共の精 神） 24. コース チャぼうやを 救え（生命の 尊さ）	
12	防犯子供を守ろうデー				・冬休みの生 活		
1	防犯子供を守ろうデー					29. 大きな じこをよぶ 「ヒヤリ・ ハット」（節 度、節制）	
2	防犯子供を守ろうデー	わたしたちの 生活と環境 （社会）寒い 季節を快適に （家庭）				30・クマの あたりまえ （生命の尊 さ）	
3	防犯ボランティア感謝の 会 防犯子供を守ろうデー	家族とほっと タイム（家 庭）			☆防災知識を チェックしよ う ☆仙台の 自然災害年 表・復興年表 （6章③）	・春休みの生 活	34. イルカ の海を守ろう （自然愛護）

赤字は副読本使用

年間指導計画に基づいて取り組んだ結果、どのように児童は変容したか。
児童は、（ ）の
ような変容が見られた。

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 128
仙台市立	荒井小学校	担当者 佐々木直子
1	学校・地域の実態	➡ 1
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教職員：開校間もないこともあり，校内の防災設備や通学路の危険箇所についての理解や共有が十分とは言えない。避難訓練や防災計画も作成途中である。 ・児童生徒：校内の防災設備や通学路の危険箇所に対する知識がまだ少ない。 ・保護者：引き渡し訓練など学校行事への参加率は高い。子供会や町内会への加入率が低く，集団登校訓練などは実施できない状態である。 ・地域性：開校と同時にコロナ禍に見舞われ，合同防災訓練などは全く行われていない。学区の中に産業道路や歩道のない狭い通学路など交通上の危険箇所が複数箇所ある。 ・東日本大震災時の地域の状況：母体校七郷小学校は長期にわたり避難所として使用され，防災教育を重視してきた。現在荒井小学校がある場所も仮設住宅跡地である。 		
2	目指す児童生徒の姿	➡ 1
<p>(自助) 校内の防災設備や通学路の危険箇所について正しい知識や，登下校時や災害時に起こりうる危険な状況を想定したり，どのように行動するべきかを選択したりすることのできる対応力を身につけている児童。</p> <p>(共助) 校内の防災設備や通学路の危険箇所について地域の方や保護者と共有したり，若年者に適切なアドバイスをしたりできる児童。</p>		
3	目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント	
学校全体の防災安全行事とリンクした，効果的な教科・学活の指導		
4	児童生徒の変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練に対する真剣な取り組みの姿勢や，避難の際の通行の仕方に対する改善の姿勢が見られた。 ・通学に際する児童同士の声かけや注意喚起の姿が見られるようになった。 		
5	実践の具体	
(1) 校内防災安全設備点検		
火災避難訓練に向けて校舎内の防災安全設備を全て稼働させ全職員で点検したところ，防災設備の不備をいくつか見つけることができた。その状況を鑑み児童にもよりリアルな状況で避難訓練を実施した。		
(2) 通学路危険箇所点検		
一斉下校訓練の計画作成に向けて学区内の危険箇所点検を行い，交通指導時の職員の配置を見直した。児童にも指導を行うことで登下校中の交通ルールの向上が見られた。また，警察に申請することで信号の点灯時間を変更してもらうことができた。		
6	年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき，令和4年度課題となること	
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を，教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し，その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理，気象条件等，環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等，震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者，地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

令和3年度 荒井小 防災教育年間指導計画

第5学年

目指す児童の姿（高学年）→日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を解し、安全な行動ができる。
自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りし、協力し合える。

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事	教 科	総 合	特 活		道 徳	
4	学区内危険箇所点検 集団下校（1年生） 登校指導	わたしと家族の生活（家庭） 天気の変化（理科）			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す力強く（1章②）	
5	自宅確認 運動会 引き渡し訓練	はじめてみようクッキング（家庭）	・田植え体験		災害時をくらすヒント4-⑥		
6	避難訓練（地震） 修学旅行	やってみよう家庭の仕事（家庭）	・食について考えよう		・避難訓練事前事後指導		8. なぜわたしたちは生まれてきたのかな（生命尊重）
7	子供110番の店訪問	けがの防止（保健）				・野外活動 ・夏休みの生活	
8	登校指導					地域行事への参加	
9	避難訓練（火災）	台風と天気の変化（理科） 着衣水泳（体育）	・稲刈り体験				13. 命を守るための三原則（思慮・節制）
10	不審者対応訓練	流れる水の働き（理科） 津波のメカニズムと災害（副読本）	・仙台再発見				20. 漂流ゴミのゆくえ（自然愛と環境保全）
11	避難訓練（津波）	情報化した生活とわたしたちの生活（社会）					21. いのちをつなぐ（感動と畏敬）
12	子供110番の店訪問					・冬休みの生活	22. ボランティアしてみよう（勤労・社会奉仕）
1	登校指導						
2		わたしたちの生活と環境（社会） 寒い季節を快適に（家庭）					33. やさしい人たち（尊敬・感謝）
3		家族とほっとタイム（家庭）			☆防災知識をチェックしよう ☆仙台の自然災害年表・復興年表（6章③）	・春休みの生活	35. 命の時間（生命尊重）

赤字は副読本のページを表します。

仙台市立台原中学校

担当者 窪 利崇

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・**児童生徒**：ほとんどの生徒は震災当時の記憶は曖昧である。都市中心部のため、震災時のライフライン復旧が早かったこともあり、震災自体については学校や保護者、テレビなどから情報は得てはいるものの、実際に防災リュック等災害に備えているという生徒は少ない。学区内に土砂災害警戒区域が数カ所あるが、具体的にどこかを認識している生徒は少ない。
- ・**保護者**：震災時には都市部のためライフラインの復旧が早かったこともあり、防災に対する危機意識は低い傾向が見受けられる。マンションが多く、転勤のため引っ越してくる家庭が多い。町内会や子供会などの行事には参加しない家庭も見受けられる。
- ・**地域性**：それぞれの町内会やマンションなどで防災訓練を実施しているが、学校と連携した訓練は行っていない。学校としては、地域との合同防災訓練等を目指している。
- ・**地域の状況**：学区内に土砂災害警戒区域があり、大雨時には土砂崩れや地滑りが予想される。地域の高低差があり、台原中学校体育館も崖のそばにあるので、体育館を避難所にできない状況である。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・3

- (自助) 災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、日頃から冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒。
- (共助) 日頃から進んで他の人や地域と関わり、助け合い、支え合うことができる生徒。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

震災遺構学習を通じた防災教育と台原中学校区の地理や自然環境を考慮した防災教育

4 児童生徒の変容

人的または物的な活用をした取組を通して、防災意識が高まっていく様子が見られた。

1学年は震災時の記憶が曖昧で、津波なども想像しにくかった生徒が語り部の方々からのお話や実際に津波被害に遭った遺構を見学して、自分の体験と置き換えて考えることができた。

3学年は震災遺構を訪れたことのある生徒も見受けられたが、改めて語り部の方からのお話や記録映画や実際の学校からの避難の説明を受け、当時の状況を想像し自分と重ね合わせることで、体験を経験へ昇華しようとする姿勢が見られた。

5 実践の具体

1学年校外学習で「南三陸町震災遺構学習」を活用した体験活動を実施した。

- ・南三陸町の震災遺構見学と語り部の方からの講話を聞いて学習した。



3学年修学旅行で「震災遺構荒浜小学校・中浜小学校」を活用した体験活動を実施した。

- ・学校の震災遺構を見学し、実際に学校からどのように避難して生命を救ったかについて語り部の方からの講話を聞いて学習した。



6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用

3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災教育年間指導計画

台原中学校 第1学年

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度			
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	関連行事等						
4	・安全な登下校 ・避難経路の確認 ・地区生徒会	・集団行動(保体)B(1)		・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		・全てがリオで かみ合ったE(1)	
5	・校外学習 ・体育祭		☆東日本大震災の記憶				
6	・中総体 ・避難訓練・引き渡し訓練	・空を見上げて(国語)A(3)	☆絆を力に一歩ずつ		・避難訓練(地震・集団行動) ・引き渡し訓練		
7	・合唱コンクール ・夏季休業中の安全指導 ・家庭訪問						
8	・地域行事への参加				・地域行事への参加		
9	・台中祭		☆私たちが立ち上がる			・「どうせ無理」という言葉に負けないF(3)	
10			☆ともに育つ			・ぼくのふるさとF(3)	
11	・避難訓練 ・環境浄化活動		☆自分を守る		・避難訓練(火災・集団行動)	・郷土を彫るF(3)	
12			☆家庭のできる災害への備え			・火の島E(3)	
1		・大地の変化:火山・地震(理科)A(2)(3),B(4) ・災害の備え(家庭)C(1)(2) ・災害時の住まいと暮らし(家庭)C(1) ・心身の機能の発達と心の健康(保体)B(1)	☆心を満たす食べ物を届ける				
2			☆心に寄り添う				
3	・卒業式 ・みやぎ鎮魂の日	・日本のさまざまな自然災害(地理)A(1)・自然災害に対する備え(地理)A(4) ・復興ソングの歌唱(音楽)F(2)	☆防災知識をチェックしよう				

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 68
仙台市立東四郎丸小学校		担当者 木村 啓太
1 学校・地域の実態	➡	1 - 4
<p>〈児童〉 津波や大きな地震に対する避難訓練へ意欲的に取り組んでいる。直接東日本大震災を経験していない児童も年々増え、実際に起きた出来事なのだという実感や、自分の身にも起きうる出来事かもしれないという感覚が薄れていくことが懸念される。</p> <p>〈地域〉 仙台市太白区の南東部にあり、海岸線から約1.4kmの地域である。東日本大震災の際には学区近辺まで津波が押し寄せた。その経験から、地震及び津波に対する防災意識が高い。</p> <p>〈学校と地域のつながり〉 例年6月に、学校と地域の共同で、地震と津波を想定した総合防災訓練と、親子防災教室を実施している。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1 - 3
<p>自助・共助の精神を培い、災害発生時に主体的に行動できる児童の育成</p>		
<p>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</p> <p>「自助・共助」「地域との連携」「自分事として捉える」</p>		
<p>4 児童生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災を自分事として捉え、自助や共助の必要性を感じる事ができた。 ・学んだことを実践したり、他者のために行動したりしようという姿が見られるようになった。 		
<p>5 実践の具体</p> <p>(1) ぼうさいリュックをよういしよう(2年 学級活動)</p> <p>災害時の備えについて、防災リュックを通して考える学習を行った。活動の中で、普段目にする事が少ない道具に触れさせることで、災害時の具体的なイメージを持たせられるようにした。また、学習内容を実生活に結びつけられるよう、本時を授業参観で実施し、児童と保護者が家庭で話題にできるようにした。</p> <p>(2) 地域を助けるために自分たちにできることを考えよう(5年 総合的な学習の時間)</p> <p>被災場所の見学や、ゲストティーチャーとして、地域の語り部を招いて話を聞くなどして、東日本大震災についての知識や考えを深めた。</p> <p>また、学んだことを基に、防災や減災のために、自分たちにできる共助のための活動を考え、ポスターでの呼び掛け等の行動に移した。</p>		
<p>6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
<p>※1. 2の <input type="checkbox"/> の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

仙台市立東四郎丸小学校 防災教育年間指導計画 (5 年)

自助・共助の精神を培い、災害発生時に主体的に行動できる児童の育成

月	防災対応の構成要素	知 識		技 能		態 度	
	学習内容	防災や災害に関する 周辺の・基礎的内容		防災や災害に関する 直接的內容		防災や災害に関する 間接的な内容	
	教科・領域 関連行事	教科等	総 合		学 活		道 徳
4	入学式 授業参観・懇談会 I PTA総会 聞取り訓練 (放送) 交通安全教室 なかよし交流会	社会「わたしたちの国土」			・緊急放送の聴き方と避難経路を確認しよう (聞き取り訓練)	・不審者への対応指導 1	
5	学区民運動会 美化活動 I				・安全な歩行の仕方を考えよう (安全副・P2～6)		・わたしたちができること (故郷復興P,【勤労・奉仕】)
6 7	修学旅行 野外活動 地域合同防災訓練 避難訓練 I (地震・津波)		・地域合同防災訓練 (備えゲーム) ・災害について知ろう	・野外活動時の災害発生の対応	・避難の仕方を知ろう (地震・津波, 副p30～31)	・地域合同防災訓練への参加 (副p38～39)	
7 8	こどもまつり 夏休みを迎える会 夏季休業日	体育 着衣水泳	・日本の災害について調べよう		・夏休みの生活について考えよう (全体・東四タイム) (安全副p17)		
9	避難訓練 II (火事) 授業参観・懇談会 II		・実際に見たり、聞いたりして東日本大震災について考えよう。		・休み時間に火災が起きたときの避難の仕方を知ろう (火災,「わたしたちの安全」参照)		
10	秋季休業日					・不審者への対応指導 2	
11	避難訓練 III (地震・津波) 学習発表会 開校記念日 美化活動 II		・見たり、聞いたりしたことを共有し、整理しよう		・地震が起きたら (地震・津波, 副p32～33)		・わたしたちができること (故郷復興P,【愛校心】)
12 1	冬休みを迎える会 冬季休業日	社会「情報社会」・災害を伝える情報手段	・防災(減災)のために自分たちができることを話し合っ決めてよう		・冬休みの生活について考えよう (全体・東四タイム) (安全副p18)		
2	授業参観・懇談会 III	社会「わたしたちの生活と環境」 ○自然災害を防ぐ	・防災(減災)のために自分たちができることをしよう。				
3	3.11 絆朝会 卒業式				・春休みの生活について考えよう (各学級)		・あの日を忘れない (臨時朝会,【希望・勇気・努力】)

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 53
仙台市立鶴谷東小学校		担当者 伊藤 浩也
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<ul style="list-style-type: none"> ・1～4年生は、東日本大震災を経験しておらず、5、6年生は乳幼児期に経験しているため、災害を身近に感じにくい児童が多い。 ・避難訓練などに、静かに取り組む姿が見られるが、言われたとおりに従っている面もあり、訓練のねらいを捉えて、課題意識を持って取り組めていない。 ・コロナ禍で地域の防災訓練が中止になったことや、震災から年月が経っていることから、防災意識がやや薄れつつある。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・2・3
「災害を身近に感じ、自らの命や他者の命を守る行動ができる児童」		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「体験的な活動」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「日常生活や各教科との関連」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「発信者」</div> </div>		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活や教科と関連した学習」や「体験」を行ったり、必要感から発信者側に立ったりしたことで、児童が災害を身近なものとして感じられるようになった。 ・生活や教科と関連させた防災教育を行うことによって、災害をより身近に感じ、課題意識を持って、避難訓練などに取り組むことができるようになった。 		
5 実践の具体		
6 学年 災害について考えよう（総合的な学習の時間）		
①被災した教員による講話【課題設定】（11月）		
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災時の教室の様子や、避難所での様子などについて、写真資料や、教師の語りから学ぶ。→「自分たちが想像している以上のできごと。意外と知らないことがたくさんある。」、「もっと詳しく知りたい」という課題意識を持つ。 		
②荒浜小学校訪問【情報収集】（11月）体験的な活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・荒浜小学校を訪問し、現地の様子を肌で感じ、被災した方の話を聞く。 		
③Google スライドで発表作り【整理分析】（12月）		
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが学んだことを他の学年にも伝えたいという思いから、課題別グループに分かれ、資料を整理して、スライドを作成。 		
④全校行事「いのちを大切にする会」で発表【まとめ・表現】（12月）		
<ul style="list-style-type: none"> ・校内TV放送で、他学年に伝える。 		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。		
<input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。		
<input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<small>※1、2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</small>		
<small>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</small>		

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	特別の教科道徳	
	関連行事					
4	<ul style="list-style-type: none"> 「1日の子の暮らし」の確認 安全点検年間計画確認 安全点検・地区巡視 避難訓練, 避難経路確認, 学年別一斉下校 交通教室(歩き方・自転車の乗り方) 防犯ベル作動訓練・居所確認 	<ul style="list-style-type: none"> くふうしよう朝の生活(家) <input type="checkbox"/> 		<ul style="list-style-type: none"> 大切な命(2)[カ] 	<ul style="list-style-type: none"> ○震災を忘れない(防副1章③) 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちらネコの手ボランティア[C 勤労・公共の精神]
5	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 引き渡し訓練 地区巡視 	<ul style="list-style-type: none"> ものの燃え方(理) 			<ul style="list-style-type: none"> ○大きな災害と人間の心の動き <input type="checkbox"/> (防副3章④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神山地[C 伝統と文化の尊重国や郷土を愛する態度]
6	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検・市民防災の日 救急救命法の研修会 地域教育協議会(冠婚葬祭) 引き渡し訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳, 安全指導(体) 		<ul style="list-style-type: none"> ○家族防災会議を開こう(防副4章⑥) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 		<ul style="list-style-type: none"> ・土石流の中で救われた命[B 感謝]
7	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 夏季休業中の安全 					
8	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 防災についての研修会 		<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行自主研修を企画しよう <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 			
9	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> 海の命(国) 				
10	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 学芸会 修学旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震と津波のメカニズム(理)(防副3章①) 	<ul style="list-style-type: none"> 「災害について調べよう」 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に備える(防副4章③) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 		
11	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 避難訓練(休憩時) 被災した教員による講話 荒浜小訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 土地のつくりと変化(理) 工夫しよう楽しい食事(家) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> ○復興への道は続く(防副2章③) ○災害に強いまちづくりを目指して(防副2章③) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ○自分のまちに起こりうる災害を考えよう ○震災を語り継ごう <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 被災した教員による講話 荒浜小訪問 		
12	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 鶴東防災の日 命を大切にする会(防災プレゼン) 避難訓練(不審者想定) 冬季休業中の安全 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい日本・平和な日本(社) 			<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にする会(防災プレゼン) 	
1	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> 電気とわたしたちの暮らし(理) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ○人々をつなげる活動(社) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (防副5章①) 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の未来と日本の役割(社) ○つながる～世界の国々と～(社)(防副5章①) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 				<ul style="list-style-type: none"> 小さな連絡船「ひまわり」[C よりよい学校生活・集団生活の充実]
3	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 春季休業中の安全 学校安全点検の評価と反省 	<ul style="list-style-type: none"> 人と環境(理) 君たちに伝えたこと(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動(総) <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災知識をチェックしよう(防副6章①) ○仙台の自然災害年表・復興年表(防副6章③) 		

■自分づくり教育(6年重点事項)との関連 …かかわる力 …うごく力
 ○新防災教育副読本を活用する内容 (防副 ○章)

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 79
仙台市立広瀬小学校		担当者 松田 啓弘
1 学校・地域の実態	➡	1, 3
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：東日本大震災から10年が経過し、高学年児童でも震災当時のことを覚えている児童はあまりいない。避難訓練や交通安全教室などに真剣に取り組む児童が多く、災害時に自分の身を守ることの大切さを理解している。 ・保護者：引渡訓練や授業参観など学校行事への参加率は高く、学校の活動に対して協力的と言える。しかし、防災リュックや非常食など、日頃からの災害への備えや防災意識については家庭によって差が見られる。 ・地域性：学校近くを広瀬川が流れている。また、用水路も校庭すぐそばにあり、数年前の大雨の際には氾濫して校庭が使用できなくなったこともあった。 ・東日本大震災時の地域の状況：沿岸部から離れていることもあり、津波による被害はなかった。児童の事故やけがも無かったが、停電のため暖房が使えない家庭があった。また、近隣のスーパーに食材を求めて、家族と一緒に買い物に行く児童もいて、長蛇の列ができた。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1, 3
<p>(自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ちついて行動し、身を守る児童の育成</p> <p>(共助) 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合って進んで行動できる児童の育成</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「災害を自分事として捉え、身の守り方や協力し合うことの大切さを考える防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・荒浜小を見学したり災害時の様子を聞いたりすることで、災害の大きさを実感し、防災の意識が高まった。 ・ゲストティーチャーの話聞くことで、協力し合うことの大切さを改めて感じるようになった。 		
5 実践の具体		
(1) 荒浜小見学		
指導のポイントを事前に指導したことで、荒浜小への関心が高まった。実際に見学したときは、3つのグループに分かれて見学をしたが、職員の方から話を聞いたり被害の様子を見たりすることで、被害の大きさを実感することができた。		
(2) ゲストティーチャーの活用		
教育実習生が本校卒業生だったため、震災当時の様子を話していただいた。また、震災後、ボランティア活動をしていた地域の方にも話をしていただいた。自分たちが生活している教室での出来事を知ったり、ボランティア活動への思いを教えていただいたりすることで、児童が震災を自分のこととして捉えることができるようになってきた。		
(3) 自分たちにできることを考える		
5年生が総合的な学習で防災をテーマとしている。家庭での準備を確認するだけでなく、実際に災害が起きたときにできることを考え、令和元年度には、「サバ飯」を調べたり実際に作ったりする活動に取り組んできた。		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。		
<input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。		
<input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

5年 防災教育指導計画

①目標

- 【自助】様々な災害の危険を理解し、自他の命を守るために適切に判断し、主体的に行動する。
- 【共助】相手の立場を理解して、自分たちができることを考え、進んで他の人たちと協力しよう。

②指導計画・学習活動の概要

時期	教科等	学習内容	資料
4	学級活動・学校行事	「安全な通学・交通安全教室」 正しい自転車の乗り方や安全点検の仕方についての基本的な知識・技能を知る。	わたしたちの安全 6 「自転車に乗るとき」
5	保健	「けがの防止（野外活動）」 ※2月単元だが、単元入替で実施 野外活動中にけがをしたとき、簡単な手当ができるようにする。	保健教科書 防災教育副読本 第4章3 「応急手当の方法と救急車の呼び方」
	学校行事	「野外活動での安全」 自然の中での活動や、宿泊施設での安全な過ごし方について知る。	わたしたちの安全 2 「校外学習での安全（野外活動・宿泊施設で）」
6	学級活動・学校行事	「安全な避難・避難訓練（地震）」 地震の時の身の守り方や避難の方法を知る。	防災教育副読本 第4章1 「災害が起きたら」 わたしたちの安全 7 「災害のとき」
7	学級活動	「よりよい夏休みの過ごし方」 夏休み中のけがや事故防止、安全のままりを知る。	わたしたちの安全 5 「夏の安全・冬の安全」
8	理科	「台風と天気の変化」 台風特有の動きと台風がもたらす被害について知り、災害への備えについて考える。	理科教科書 防災教育副読本 第3章2 「いろいろな自然災害」
10	学校行事	「避難訓練（火災）」 火災の時の身の守り方や避難の方法を知る。	わたしたちの安全 7 「災害のとき」 防災教育副読本 第4章2 「災害から身を守るために（火事を見つけたら）」
9～2	総合・家庭・保健と合科	「防災について学ぼう」 東日本大震災での具体的な状況について知り、どんな備えをおくべきかを考える。 災害に備え、自分たちが地域のためにできることを考え、実行する。	防災教育副読本 第1章1 「東日本大震災養生」 第4章4 「災害時をくらすヒント」
10	保健	「心の健康」 ※6月単元だが、けがの防止と単元入替で実施。総合で東日本大震災の状況を知った後、実施するとよい。 災害時には心や体にストレスサインが現れることを知り、自分ができることを考える。	保健教科書 防災教育副読本 第4章7 「心と向き合って」

10	家庭	「食べて元気」 5 大栄養素の働きが分かり、栄養バランスを考えたいサ ハイバル飯を考える。 ご飯やみそ汁などの調理の仕方を知る。	家庭科教科書
11	※総合と合科		
11	道徳	「わたしのボランティア体験」 社会に奉仕する喜びを知り、公共のために自分ができることを考える。 「流れる水のはたらき」 川の流れと地形について知り、川の氾濫（洪水）に備える工夫について知る。また、この地域での川の氾濫の危険性も知る。	あたらしい道徳 2 1 「わたしのボランティア体験」 理科教科書 防災教育副読本 第3章2 「いろいろな自然災害」
12	学級活動	「冬休みの過ごし方」 冬休み中のけがや事故防止、安全のままりを知る。	わたしたちの安全 5 「夏の安全・冬の安全」
1	社会	「情報化した社会と産業の発展（情報を生かすわたしたち）」 災害時の情報活用の良さと危険性を知り、正しい活用方法を考える。	社会科教科書 防災教育副読本 第3章3 「災害時の情報手段」 第3章4 「大きな災害と人間の心の動き（災害時に伝達される情報との向き合い方）」
2	社会	「わたしたちの生活と環境（自然災害をふせぐ）」 自然災害の被害を防ぐための国や県、市町村の対策や事業について知り、自分ができることを考える。	社会科教科書 防災教育副読本 第2章3 「災害に強いまちづくりを目指して」 第5章2 「人々をつなげる活動」

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 94
仙台市立黒松小学校		担当者 小池 昂史
1 学校・地域の実態	➡	1, 2
<p>児童の実態として、非常放送をしっかりと聞いたり、整然と行動ができたりと、児童の防災意識は年々高くなっていると感じる。避難訓練の際には、「おはしも」を守り、素早く行動する姿が見られた。課題としては、臨機応変な行動が挙げられる。保護者の実態として、引き渡し訓練の際に、ほとんどの保護者が参加し、訓練を行うことができた。「児童の安全」「防災への意識を高める」という理由から、今年度から、学校全体として防災頭巾の普及に取り組み始めた。現在では、1年生は全員が防災頭巾を所持しており、2年生は、半分の児童が所持している。地域の実態としては、各町内会と学校で、地域防災計画の見直しを行ったり、防災備品などの設置場所の確認や見直しをしたりと、密に連絡を取り合っている。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1, 2
<p>自助「平常時から災害に備え災害時に冷静に判断し自ら命を守り臨機応変に自らの安全を確保できる力を育てる」 共助「平常時から進んで他の人や地域の力となり災害時の対応や地域に協力し参画できる力を育てる」</p>		
<h3>3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育と合わせた「命を守る教育」 ・1年生スタートカリキュラムでの「命を守る教育」の実施 		
<h3>4 児童生徒の変容</h3> <p>1年生は、防災頭巾の着用により、いつもと違う雰囲気の中、訓練を行うことができた。「おはしも」を守り、避難行動をし、小さな揺れでもすぐさま机の下に潜るといった姿が見られる。これは、震災を体験していない児童にも言えることであり、防災教育が成されている結果の一つとして捉えることができると考えている。また、スタートカリキュラムに安全教育と共に防災教育を組み込むことによって、いつ起こるか分からない災害や事故から、自分の身を守るにはどうすれば良いか、早いうちから考える姿が見られた。「命を守る」ということに対しての意識の高まりを感じることができた。</p>		
<h3>5 実践の具体</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に学校生活を送るために、指導を行っている。スタートカリキュラムの中で、まず、1年生は整列の仕方を学習する。並び順を教える際に、先生が先頭であること、机順に整列すること、素早く静かに並んで避難を行うことをポイントとして話をした。災害が起きたとき、学校はどうなるか、なにが危険なのか、素早く並んでどう校庭に移動するか避難経路と合わせて指導した。 ・防災頭巾の使い方を学習させた。練習し、素早く正しくかぶれるようになった。避難訓練の際にも素早く防災頭巾を被り、素早く並び、避難をすることができた。 ・4月の早い段階で防災教育を進め、学校の設備についても、児童に指導している。(不審者対応のための非常用ボタンや火災報知器など) 児童たちは前もって学習していたので、しっかりと避難の内容を把握し、慌てることなく落ち着いて避難行動を取ることができた。 ・交通安全教室では、泉地区交通指導隊の指導により、道路は走らずに歩くこと、手を挙げて渡ること、車の確認の仕方や、登下校中は広がって歩かないなど、事故に遭わないようにするためにはどんなことに気を付ければ良いか、真剣に話を聞くことができた。 		
<h3>6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること</h3> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

黒松小学校 防災教育年間指導計画

小学校 第1学年

○生活科に「防災安全単元」として 5時間配当 *教科は< >内, 時数は()内

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	特 活	道 徳	
4	・避難訓練(避難経路確認) ・交通安全教室	<生活(3)>スタートカリキュラム 「みんなでつうがくろをあるこう」 ①交通ルールを学ぼう ②③安全に歩こう(交通安全教室)	体育 集合・整列	防災頭巾の 使い方	「きをつけて」生活態度A-(3)
5	・(家庭訪問)				
6	・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 ・不審者対応避難訓練	<生活(2)>防災教育副読本 「3.11から未来へ」 第1章あの日を忘れない ①あの日2011.3.11 ②ひがいをうけた学校, 地いき		避難訓練 事前事後指導 地震対応訓練 引き渡し訓練 不審者対応訓練	
7					
8	(地域行事への参加)				「いのちがあったよかった」D-(1)
9	・避難訓練(休憩時)			避難訓練 事前事後指導	
10					
11	・三校あいさつ運動 ・避難訓練(火災)			避難訓練 事前事後指導	
12					
1			<生活(1)> じぶんでできる ことをしよう		
2					
3					

仙台市立富沢中学校

担当者 千葉 政孝

1 学校・地域の実態 → 4

全校生徒数965名の大規模校である。19の町内会があるが、多いところでは150人以上の生徒が所属する町内会がある。

生徒の防災に対する意識は高く、避難訓練も無言で真剣に取り組んでいる。本校の近くには筑川があり、地域住民も洪水に対する防災意識は高い。しかしながら、今年度はコロナの影響で予定していた地域連携型防災訓練が実施できていないことなどから、町内会と生徒、同じ町内会の生徒同士の繋がりが希薄であると感じる。また、避難訓練以外の指導場面の設定が学年に任されており、学校全体としてねらいに迫る指導が弱かった。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

(自助) 平常時から災害に備え災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け 災害時に冷静に判断し臨機応変に自らの安全を確保できる生徒

(共助) 平常時から思いやりや感謝の心を醸成し 災害時に進んで他の人や地域の力になろうとする生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

防災に関する学習を通して、「自助」や「共助」についての意識が高まった。

5 実践の具体

(1) 町内会集会の実施

所属する町内会ごとに自己紹介や危険箇所の確認などを行った。

(2) 地域連携型防災訓練(代替の活動を9月17日に実施)

毎年、9月中旬に地域連携型防災訓練を実施している。昨年度同様、今年度もコロナ感染拡大防止の観点から、地域連携型防災訓練は実施できなかった。その代替の活動として、各学級でアルファ米の炊き出しの仕方や、ビニール袋や新聞紙などの身のまわりにあるものを使った応急処置法について学習した。



写真(左)は学級委員を対象とした講習会の様子
写真(右)は学級委員が各学級で応急処置法を伝えている様子

(3) 仙台版防災教育副読本を活用した授業(6月9日, 11月22日に実施)

- ・勇気と希望をもって(第2章③)
- ・自分を守る(第4章④)

6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

※1, 2の□の番号について: 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用

3 東日本大震災の体験者からの講話等, 震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承

防災教育年間指導計画

富沢中学校 第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	・避難経路の確認 ・校外学習	町内会の確認		・校外学習における災害対応の確認	避難経路の確認		
5	・復興プロジェクト		☆絆を力に一歩ずつ(2章①)	大地震			
6	・中総体 ・第1回避難訓練(町内会の確認)	生徒だけで町内会の確認			・避難訓練(集団行動) ・非常時下校体制の確認 ☆東北地方太平洋沖地震発生(1章①) ☆自分の身は自分で守る(4章②)		
7	・(合唱コンクール) ・復興プロジェクト ・夏季休業中の安全指導 ・(家庭訪問)						
8	・(夏祭りなど地域行事)					・地域行事への参加	
9	・地域連携型防災訓練(第2回避難訓練を含む) ・町内会の方との交流 ・(文化祭)	町内会の方と交流		防災週間の実施	・防災訓練への心構え ・集団下校・引き渡し訓練の確認		
10		☆家庭でできる災害への備え(4章③:体育)					☆はじまり(5章②)
11	・復興プロジェクト ・第3回避難訓練	活動の振り返り			・一年の活動についての振り返り	☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)	
12		☆3.11の地震を科学の目でとらえよう(3章②:理科)					
1		・火をふく大地(理科) ・心身の機能の発達と心の健康(体育)					
2		・動き続ける大地(理科) ・大地の変化を読み取る(理科)	大地震 大雨 土石流				
3		☆地震に伴う災害について知ろう(3章③:理科)	☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)			

☆ 副読本活用

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 245
仙台市立八乙女中学校	担当者 菊池 皓大	
1 学校・地域の実態	→ 1, 4	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災が発生したときは3～5歳のため、記憶が薄れている又はほとんど覚えていない生徒が多い。 ・以前は授業の一環として全校生徒が地域の防災訓練に参加するなど地域と協力しての防災対策が行われていた。しかし、その取組は地域によって温度差があった。その後、地域主体で行われるようになってからの生徒の参加率は低下傾向にある。現在はコロナ禍のため実施されていない。 ・学校で実施されている避難訓練には真剣に取り組んでいる。避難経路を理解している生徒が多く、避難に要する時間が短く、迅速な行動ができています。 ・本校は土砂災害警戒区域であり、地震のみならず、学校と地域が協力して防災訓練等を実施し、防災意識を高めていくことが大切である。
2 目指す児童生徒の姿	→ 1, 2, 3	<p>「災害発生時に協力して命を守り、助け合う行動ができる生徒」</p> <p>(自助)災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。</p> <p>(共助)非常時に進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を育成する。</p>
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等の体験的な活動を通じた防災教育の実施 ・八乙女中学校区周辺の防災ハザードマップを活用した防災教育の実施 ・日常生活や各教科、領域と連携した防災教育の実施
4 児童生徒の変容		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等に目的を持って取り組み、八乙女中学校区が土砂災害特別警戒区域に入っていることを理解したことで防災意識が高まっていく様子が見られた。 ・各学年、各教科で防災に関連した授業を行ったことで理解を深める姿が見られた。 ・防災出前授業を活用したり消防署の方から心肺蘇生法を学んだりすることで体験活動を通して学ぶことができた。(昨年度の実施から)※今年度2月に実施予定
5 実践の具体		<p>○1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康を守るために」(保健体育)・「空を見上げて」(国語) ・「仙台平野災害の歴史を学ぼう」(社会)・「3.11の地震を科学の目でとらえよう」(理科) ・「安全な住まい」(家庭科)・「応急手当講習会」(総合的な学習の時間)・「避難訓練」(総合的な学習の時間) <p>○2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事故やけがの防止」(保健体育)・日本のさまざまな自然災害と防災(社会) ・「自然災害の現状と対策」(保健体育)・「応急手当」(保健体育) ・「様々な自然災害に備える」(理科)・「避難訓練」(総合的な学習の時間)・「野外活動時の災害発生への対応」 <p>○3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「避難訓練」(総合的な学習の時間)・災害時の安全な避難と備え(特別活動) ・「防犯安全マップの確認」(特別活動)・修学旅行時の災害発生への対応(総合的な学習の時間) ・「防災ゲームクロスロード」(総合的な学習の時間)
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。
<small>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</small>		

仙台市立八乙女中学校 令和3年度防災教育年間指導計画

第2学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	4	・校内安全点検(毎月) ・避難経路の確認 ・一斉メール配信の確認 ・ボランティア活動 「美助っ人」(通年)					・危険箇所の確認
5	・避難訓練(地震) ・体育祭		・副読本p28「地震に備えよう」			・災害時の安全な避難と備え ・地震の危険と避難 ・避難訓練	
6	・市中総体	・事故やけがの防止(保体) ・日本のさまざまな自然災害と防災(社会)					・市中総体における安全指導と各会場での災害発生時の対応について
7	・校内合唱コンクール ・教育相談	・自然災害の現状と対策(保体)					・夏休みの過ごし方 ・「防犯安全マップ」の確認
8							
9	・紺青祭 ・野外活動	・「五重の塔はなぜ倒れないか」(国語)	・副読本p36「自分を守る」			・野外活動時の災害発生への対応	「田老の生徒が伝えたもの」
10							
11	・避難訓練(火災) ・防災出前授業	・天気とその変化(理科) ・「小さな町のラジオ発」(国語)				・災害時の安全な行動	
12		・副読本p38「様々な自然災害に備える」(理科)					・冬休みの過ごし方
1		・応急手当(保体)・大地の変化(理科)・副読本p32「古典に残る災害を読んでみよう」(国語)・副読本p40「家庭のできる災害への備え」(保体)					
2							
3	・故郷復興プロジェクト(校内)		・防災ゲーム「ダイレクトロード」 「避難誘導に協力しよう」				・春休みの過ごし方

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 41
仙台市立旭丘小学校		担当者 庄司 幸弘
1 学校・地域の実態	➡	1・4
<p>・児童：震災から10年以上が過ぎ、震災の記憶はほぼ残っていない。また、震災自体については、学校や親、テレビなどから情報は得てはいるものの、実際に被災地に訪れたり、津波による具体的な被害状況を理解したりしている児童は少ない。震災以降、防災リュック等災害に備えているという児童は多く見られる。</p> <p>・保護者：引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で地域とのつながりに煩わしさを感じ、町内会や子供会などの行事には参加しない家庭もある。</p> <p>・地域性：町内会が4つあり、それぞれの町内会で防災訓練を実施しているが、学校と連携した訓練は現在行っていない。学校としては、地域との合同防災訓練等を目指している。コロナ禍のため地域や近隣校と合同の引渡し訓練や防災訓練は見通しが立たない状況である。</p> <p>・東日本大震災時の地域の状況：地域的には、市街地であったので震災当時は、地震による被害が主で、一部で家屋の倒壊も見られた。避難所を利用する住民も多く、ライフラインが止まったことで、食料や水等を求め長蛇の列ができた。避難所運営は、地域（町内会）が中心になって行ったがほとんど手さぐり状態だった。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	2・4
<p>(自助) 幅広い防災対応力を身に付け、災害時に冷静に判断し、自らの命を守り、自らの安全を確保できる児童。</p> <p>(共助) 平常時から進んで地域の力となり、災害時の対応や地域に協力できる児童。</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「朝の活動や総合的な学習の時間を中心とした防災教育」「保護者や地域と連携した防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<p>ほぼ月に1回程度の朝の防災学習を通して、避難訓練等だけではなく日常的に児童の防災意識が高まってきた。朝の防災学習で導入を行い、家庭で実践という取組も行き、保護者の防災意識も高まりつつある。</p>		
5 実践の具体		
<p>(1) 防災学習（朝の活動）における実践 6月～3月まで月1回、避難訓練の事前指導だけでなく、様々な災害について備えるための学習を、主に仙台版防災副読本をしながら実践を重ねた。系統性を考え自助・共助の項目をもれなく扱えるように注意を払った。</p> <p>(2) 「ぼうさいリュックを用意しよう」（3年：朝の防災学習・学活）の授業実践 防災副読本を活用し、朝の防災学習で導入後、家庭で実践した。家庭での取組を学活の時間に共有した。</p> <p>(3) 「ぼうさいグッズについて考えよう」（特別支援学級：生活単元学習）の授業実践 防災グッズとして何が必要かを考えた後、先生方のインタビューを視聴したり、実際に防災グッズを体験したりした。</p> <p>(4) 「防災とは」（5年：総合的な学習の時間）の授業実践 コロナ禍のため、地域防災訓練への参加や災害時の食事の実践などに取り組むことができなかったが、防災学習をベースに調べ学習を進め、一人一人まとめをし、学級内で共有した。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<p>■ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。</p> <p>■ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。</p> <p>□ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に示すこと。</p>		
<p>※1. 2の□の番号について： 1 学区内の地理 気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

仙台市立旭丘小学校防災教育年間指導計画

第 3 学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
月	学習内容	防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活(防災学習)	道徳		
4	・学区・通学路の安全確認 ・1年避難訓練(避難経路、避難場所確認) ・防犯教室・不審者対応避難訓練 ・交通安全教室	・学校のまわり(社会) ・時刻と時間(算数)			◇登下校の安全 ◇避難訓練(不審者が学校に侵入したときの対応について知る。)	・校舎内外の安全を確認しよう	☆たった一つのもの(1章③) ・あいさつをすると(礼儀)
5	・運動会	・市のようす(社会)					
6	・防災月間 ・避難訓練(地震) ・一斉下校訓練 (・地域連携引渡訓練)	・身の回りのせいけつ(体育)			☆東日本大震災をしよう(1章①②)防 ◇避難訓練、一斉下校、引渡訓練(事前、事後指導)	・防災グッズの中身は？	・きまりじゃないか(規則の尊重) ・ヌチヌチグスージ(いのちのまつり)(生命の尊重)
7	・夏休み前集会 (地域行事への参加)	◇着衣泳(体育)			☆東日本大震災をしよう2 旭ヶ丘の被害(1章①②)防	・夏休みの生活 ・地域行事への参加	☆大切なこと(2章⑤)
8	・わかばまつり				☆自分でできる(4章④)防		
9	・休憩時火災対応避難訓練	☆雨、風、雷について知ろう(3章②:理科)			◇災害のとき(事前・事後指導) ★災害について知る(2章 地震)防 ☆休憩時の避難の仕方について学ぶ		・ゆうすけの朝(節度ある生活態度)
10					☆つなみについて知ろう(3章②)防	☆ふるさとを元気に自分たちができること(2章⑤)	☆大切なこと(2章⑤) ・いっただいなのち(生命の尊重)
11	・学習発表会 (・故郷復興プロジェクト) ・火災対応避難訓練	☆復興プロジェクトで自分ができること(200字でまとめる:スキルタイム)			★自分の身は自分で守る(3章)防 ◇避難訓練事前・事後指導◇冬の安全		・あめだま(公德心)
12	・冬休み前集会	☆見つめようわたしの心(4章⑩:体育)			☆ぼうさいリュックを用意しよう(4章⑥)防	・冬休みの生活	・ぼくのおばあちゃん(家庭愛)
1			☆たっくさんのおうえん(5章①)		☆震災を振りかえるプレゼン(3章③④)防 ※復興プロジェクト		・ふるさといいとこさがし(郷土愛)
2		・のこしたいもの伝えたいもの(社会)			☆わたしたちにできること(5章⑤)防	☆つたえようわたしたちのことばで(5章⑥)	
3	(・故郷復興プロジェクト)				☆防災知識をチェックしよう【6章①】 ☆仙台のさいがい年表、ふっこう年表(6章③)防	・春休みの生活	

☆:新防災教育副読本 ★:県防災読本 ◇:わたしたちの安全 防:防災学習

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 56
仙台市立大野田小学校		担当者 竹中 有美
1 学校・地域の実態	➡	1, 4
<p>・児童生徒：震災を経験していない児童が半数を超え、震災の風化が一番の課題である。東日本大震災について、過去に甚大な被害をもたらした災害があったということは「仙台版防災教育副読本3.11から未来へ」などの副読本を使用した防災の学習などを経て、低学年の児童も含め理解しているが、どこか他人事である。避難訓練などには真面目に取り組むが、安全・防災に関する知識でとどまっておき、実際に地震等が起こったときには自分で考えて行動することが難しいことも予想される。</p> <p>・保護者：授業参観などの学校行事にも両親で参加する姿が見られるように、学校教育への関心が高い。転勤族も一定数いて、震災当時他県で生活していた保護者もいる。</p> <p>・地域：町内会の活動など、地域ぐるみで子どもを育てていく姿勢が多く見られる。マンションやアパートに住む児童も多いが、その一方で横の関係性が希薄な部分もある。震災時には大きな被害を受けなかったこともあり、地震よりむしろ大雨時の避難について意識が高い。</p>		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1, 3, 4
<p>(自助) 災害に関して正確な知識や対応を身に付け、危険を予測して自分の命を守ることができる児童</p> <p>(共助) 非常時に進んで他の人や地域の力になることができ、大切な人の命を守ることができる児童</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「総合的な学習の時間を中心とした防災教育 自分でできる防災教育」		
4 児童生徒の変容		
<p>(自助) 災害について自分事と捉え、非常用バッグを用意したり家族と話をしたりする児童が増えた。また、ニュースを見て、災害に関する話を学校で友達とするようになった。</p> <p>(共助) 自分たちが学習した事について、下学年や家族に伝えたいという思いを持つ児童が多くなった。</p>		
5 実践の具体		
<p>・防災授業</p> <p>「仙台版防災教育副読本3.11から未来へ」を使用し、地震と火災を想定した避難訓練の事前指導と事後指導を行った。新型コロナウイルスが流行する前は、復興ソング「希望の道」を全学級で練習し、復興朝会を行っていた。復興ソング「希望の道」を練習する際には歌詞の意味にも注目させ、東日本大震災の当時がどんな状況だったのかにも言及した。</p> <p>・4学年総合「3.11を振り返って」</p> <p>東日本大震災について調べ学習を行った後、校外学習で震災遺構仙台市立荒浜小学校と3.11メモリアル交流館の見学をした。その後、社会科の学習と並行して、自分が一番興味のある災害を学習し、それぞれのテーマでまとめた。</p> <p>・4学年総合「自分たちの防災」</p> <p>災害について学習した後、自分たちが住んでいる地域について、自分たちができる防災は何かについて考え、調べ学習を行った。自分たちの考えや防災についてまとめ、保護者の前で発表した。</p>		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<p>※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

R3 大野田小学校 防災教育年間指導計画

目指す児童像(中学年)

☆ 副読本活用

第4学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する		防災や災害に関する		防災や災害に関する	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活	道徳	
4	・交通安全教室 (仙台南警察署交通課) ・避難経路確認週間 ・緊急放送聞き取り訓練 ・自宅確認 ・集団下校	・集団行動 (体育)			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ☆東日本大震災発生(1章①)		
5	・防犯避難訓練		・災害について ・校外学習事前指導				・2(4)尊敬・感謝
6	・地域合同防災訓練 ↑R3年度無くなる予定 ・Jアラート訓練	・地震からくらしを守る(社会)	・荒浜小学校、メモリアル交流館見学		・避難訓練事前事後指導 ☆災害が起きたら(4章①)		
7	・休憩時避難訓練(地震) ・わかあゆまつり		・第1回学習発表会(災害についてクラスごと)			・夏休みの生活	・4(5)郷土愛
8	(地域行事への参加)					・地域行事への参加	
9		・着衣水泳(体育)	・防災について		☆災害に備える(4章③)	「わかあゆまつり」を成功させよう	・3(2)自然愛・動物愛護
10				☆取り組もう！ボランティア活動(5章③)	・応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦)		
11	・避難訓練(火災)		・第2回学習発表会(防災について保護者)		・避難訓練事前事後指導 ☆災害から身を守るために(4章②)		・3(1)生命尊重
12		・県の広がりくらし(社会)				・冬休みの生活	
1						☆震災を乗り越えて(5章④)	
2							☆一番大切なことは(2章⑤)
3				☆復興へ今を力強く(2章②)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	☆防災知識をチェックしよう(6章①) ・春休みの生活	

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 224
仙台市立鶴谷中学校	担当者	藤田 耕太
1 学校・地域の実態	➡	3・4
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒：東日本大震災から10年が経ち、防災意識が少しずつ薄れてきているものの、地震等の災害に対しては自らの安全確保などの行動は適切で、訓練にも意欲的に取り組んでいる。 ・保護者：共働きをしている保護者が多いが、学校行事や引き渡し訓練などへの参加率も高く、比較的協力的な家庭が多い。 ・地域性：住民の高齢化が進み、高齢者が地区人口の30%以上を占めている。そのため、震災発生時の力となる中学生への期待も大きい。 ・東日本大震災時の状況：震災当時は、地震による被害が主で、家財に被害を受けた生徒は多いが、家族や親戚を失うなどの、心のケアが必要な生徒はほとんどいない。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1・4
<p>(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒</p> <p>(共助) 非常時に進んで他の人に協力し、地域の力となれる生徒</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
・地域と連携し、自助・共助のスキルを高める防災教育		
4 児童生徒の変容		
<ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助の具体を知り、災害時に自分で判断して行動できる力を身に付けた。 ・防災訓練では、学年に応じた機能訓練を行うことで防災に関する意識や知識が高まった。地域の方々と活動することにつながりが深まり、地域の中で自分ができることは何かを考えることができた。 		
5 実践の具体		
(1) 地震や火災を想定した避難訓練、引き渡し訓練		
例年、年2回の避難訓練と小中合同で引き渡し訓練を実施している。非常時の行動の確認や各家庭との連携を図ることができた。		
(2) プチレスキュー		
3年間を通して、市民センターと連携をしてプチレスキュー活動を行っている。1年で「災害時の避難の仕方や事前の対策・準備」、2年で「応急手当や心肺蘇生法」、3年で「避難所の運営方法」などについて学び、いざというときに自ら動けるように防災教育を行っている。		
(3) 東日本大震災の体験職員からの講話(道徳)		
道徳の授業で被災地での実体験の話を扱ったり、3月11日に当時の状況について講話をしたりすることで、生徒に「命の大切さ」について考えさせるきっかけとなった。		
(4) 被災地への訪問		
1年生の校外学習で、被災地である雄勝町を訪れ、防災・減災について自ら考え、学ぶ機会をつくることができた。大川小学校なども訪れ、語り部体験なども行うことで当時の状況や深刻さを知ることができ、災害時の地域との連携や自ら考えて行動することの必要性について学んだ。		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input checked="" type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
※1, 2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用		
3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承		

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	仙台版防災教育 防災副読本の活用
学習内容		防災や災害に関する周 辺的・基礎的な内容	防災や災害に関する直 積的な内容	防災や災害に関する間 接的な内容	
月	防災・安全関連行事	教科 1年	総合・特別活動等	道徳	
4月	校内安全点検	・心身の機能の発達と 心の健康（保）	・日常の防災指導 ・安全な登下校の指導 と通学路の確認 ・災害時の対応方法 ・連絡網の確認 ・規律ある集団行動	・学年、学級集団のあ り方	・東北地方太平洋沖 地震発生（第1章） ・復興に駆ける（第1 章） ・心の健康を守るた めに（第4章）
5月	校内安全点検		・不審者への対応 ・連休の過ごし方 ・校外学習における災 害時対応方法	・生命の尊重 ・自立への意欲	・自分の身を自分で 守る（第4章） ・約束（第2章） ・花と緑で人々に笑 顔を（第2章）
6月	校内安全点検 避難訓練（震災） （引渡しと集団下校体制）	・家族の安全を考えた 室内環境の整え方 （家）	・災害時の避難方法と 避難経路の確認 ・救急体制の確認 ・校外活動時の防災		・一人一人が災害に 備える（第4章） ・家庭でできる災害 への備え（第4章）
7月	校内安全点検 プチレスキュー活動 家庭訪問	・快適な住まい方 （家）	・長期休業中の過ごし 方 ・家庭、地域における 災害時の対応	・世界平和、人間愛	・地域の一員として （第5章）
8月			・職場体験中の安全		
9月	校内安全点検 プチレスキュー活動				・中学生の声（第2 章）
10月	校内安全点検 避難訓練（火災） 地域防災訓練	・身近な地域の歴史 （社）	・火災時の避難方法と 避難経路の確認 ・救急体制の確認 ・地域防災活動の確認	・思いやりとボラン ティア精神	・仙台市復興状況を 知ろう（第2章） ・仙台平野災害の歴 史を学ぼう（第3章） ・知っておきたい心 肺蘇生の方法とAED （第4章）
11月	校内安全点検 プチレスキュー活動 （防災講話）		・暖房器具使用の確認 ・ハンディキャップ体験	・法の遵守	・防災知識をチェッ クしよう（第6章） ・絆を力に（第2章） ・はじまり（第5章）
12月	校内安全点検	・情報の信頼性（技）	・長期休業中の過ごし 方 ・家庭、地域における 災害時の対応		
1月	校内安全点検	・火山の形、活動の様 子		・生命の尊重	・心を満たす食べ物 を届ける（第5章）
2月	校内安全点検	・地震の揺れの大きさ と伝わり方 ・地震の原因と地球内 部の動き		・自然の尊さ	・がんばれ日本！世 界は日本と共にある （第5章）
3月	校内安全点検	・地震に伴う土地の変 化（理）	・長期休業中の過ごし 方 ・家庭、地域における 災害時の対応		

令和3年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校報告書		学校番号 127
仙台市立錦ヶ丘小学校		担当者 川崎 史恵
1 学校・地域の実態	➡	1
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後に開校した新設校であり、学校は大きな災害において避難所の経験がない。 ・児童は、防災に関する基礎的な知識はある程度習得されており、一定の行動様式も身に付いている。 ・児童は、防災対応力を育成する3つの柱のうち「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の部分が弱いので、実際の災害が起きた時に、どれだけ対応できる力が身に付いているといえるかが心配である。 		
2 目指す児童生徒の姿	➡	1
<p>(自助) 災害に備える知識・技能 災害時における適切な思考・判断</p> <p>(共助) 他の人や地域の力になろうとする態度 地域活動に参画する態度</p>		
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
「学年間のつながり」と「学習内容間のつながり」を明確にした防災教育		
4 児童生徒の変容		
防災をテーマに探究を進めた5年生については、総合的な学習の時間における防災学習を通して、「コロナ禍の避難所において、小学生である自分に何ができるか」という課題に対して、自分事として向き合い現実性を持って考えられるようになった。		
5 実践の具体		
<p><年間指導計画の改善にあたって核になると考えた5年生の令和2、3年度の実践></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプ（令和2年度） 非常時でもたくましく前向きに過ごせるように、避難所の生活を体験し、協力することの大切さを学んだ。学校で1泊2日を過ごし、サバ・メシ作りや就寝訓練、防災体験等のプログラムを体験した。児童は、避難所の疑似体験を行うことで、より身近に課題を捉えることができたが、あくまで準備された体験だったので、リアリティさは足りなかった。 ・外部講師の講話（令和3年度） 前年度の反省を踏まえ、「リアリティのある防災学習」を行っている。今年度は、本校の校舎を設計された方をお招きして、防災の観点から見た校舎の配置や活用方法を、また、地域の防災の要となる方からは、錦ヶ丘の防災や避難所の実際について学ぶ機会を設けた。 		
6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること		
<input checked="" type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		
<p>※1、2の□の番号について： 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用</p> <p>3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承</p>		

防災教育年間指導計画

錦ヶ丘小学校 第3学年

防災対応力の構成要素		知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養		
学習内容		A 防災や災害に関する直接的な内容	B 防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容	C 防災や災害に関する間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	総合	教科	特活		道徳
				防災副読本	学級活動等	
4	・避難訓練(地震)、避難経路確認 ・交通安全教室 ・防犯守ろうデー	校外学習時の時の災害発生への対応・登下校の安全<年間> <テーマ> 錦のじまんをさがして伝えよう!	学校のまわり(社会) B【共助】	☆ひなののしかたを考えよう(4章③) A【自助】	避難経路の確認 非常時下校体制の確認 避難訓練(地震) A【自助】	やさしい人大くせん(親切、思いやり) C【共助】
5	・防犯守ろうデー	錦ヶ丘のすてきな所を見つけよう(フィールドワーク)				★星野さんのチャレンジ(うごく力) C【共助】
6	・防犯守ろうデー ・防犯教室	フィールドワークで見えてきたことを整理しよう B【共助】 ※地域での備えに気付かせる		☆地しんについて知ろう(3章①) B【自助】		
7	・自転車教室 ・引き渡し訓練 ・防犯守ろうデー	錦ヶ丘を支えている人の話を聞こう(自然)				ごみステーション(勤労、公共の精神) C【共助】
8	(地域行事への参加) ・登校指導	話を聞いて分かったことやもっと調べたいことを整理しよう B【共助】 ※環境保全に関わる人の話から、錦ヶ丘の自然環境の特徴に気付かせる。			★友達チェーン(みつめる力)C【共助】	
9	・防犯守ろうデー	錦ヶ丘を支えている人の話を聞こう(安全・福祉)		☆自分でできる(4章④) A【自助】		いっさつのおくりもの(親切・思いやり) C【共助】
10	・防犯守ろうデー ・避難訓練(火災)	話を聞いて分かったことを整理し、錦ヶ丘のじまんとまとめようA【共助】 ※安全・福祉に関わる人の話から、錦ヶ丘の人々の協力や助け合いの様子に気付かせる			★気持ちを伝える名人になろう!(かかわる力)C【共助】 避難訓練(火災)	耳の聞こえないお母さんへ(家族愛、家庭生活の充実) C【共助】
11	・緊急地震速報訓練(業間)		火事からくらしを守る(社会) B【共助】	☆ふるさとを元気に自分たちができること(2章③)	緊急地震速報訓練	いただきたいのち(生命の尊さ) C【共助】
12	・防犯守ろうデー ・弾道ミサイル訓練(業間)	錦ヶ丘のじまんとをもっとじまんにするためにできることを考えよう		☆家族ぼうさい会ぎをひらこう(4章⑤) A【共助】	弾道ミサイル訓練	★後ろ向きな考え方の乗り越え方(うごく力) C【自助】
1	・冬休みを振り返る会	錦ヶ丘のじまんとをもっとじまんにするためにできることを実行しよう	事件や事故からくらしを守る B【共助】	☆せかいとのつながり(5章①) C【共助】		
2	・防犯守ろうデー	錦ヶ丘のじまんとを発表しよう C【共助】				おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね C【共助】
3	・防犯守ろうデー ・防災ウィーク ・3.11朝会	錦ヶ丘のためにできることを続けよう C【自助・共助】 ※家庭や地域に役立つことを実行しようとする気持ちを高める		☆ぼうさい知しさをチェックしよう(6章①)A【自助】 ☆仙台のさいがい年びょう・ふっこう年びょう(6章③)B【自助】		

☆ 副読本活用 ★ たく生き

仙台市立加茂小学校

担当者 竹村 和克

1 学校・地域の実態 → 1 - 3

- ・ **児童生徒**：児童は、震災時は乳幼児や生まれていなかったため、震災について家族や教師から話を聞いたことがある程度の認識である。また、震災時は沿岸部に比べると被害が少なかった地域であり、防災に対する意識や知識が不足気味である。学区内の地形的な特徴を理解している児童は少ない。
- ・ **保護者**：保護者の教育的関心は高く、協力的な家庭が多い。引き渡し訓練など学校行事等への参加率も高い。
- ・ **地域性**：東西に学区が広く、東は仙台泉線（旧4号）から西は古内のヨークベニマルあたりまでである。学校は、北環状線を八乙女・上谷刈方面から西へ向かい、坂を登りきったところに位置し、多くの児童が、この北環状線の歩道を通学路として利用している。毎年10月に、町内会、県営住宅自治会などと合同で、学校と連携した避難所運営訓練を行っている。昨年度と今年度は、コロナウイルス感染防止のため行うことができなかった。
- ・ **東日本大震災時の地域の状況**：学区の北側に七北田川があり、学区の一部が洪水浸水想定区域に指定されている。また、崖もごく一部にあり、土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所もある。古くからある住宅街で、震災当時は、地震による被害が主だったが、幸いにも大きな被害は見られなかった。学校に避難所を開設し、ライフラインが止まったことで、水を求め多くの方々が訪れた。避難所運営は、町内会と学校が中心になって行った。

2 目指す児童生徒の姿 → 1 - 4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し、自らの命を守り、自らの安全を確保できる児童。
- (共助) 平常時から他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力できる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「総合的な学習の時間を中心とした防災教育」「地形や自然環境を考慮した防災教育」

4 児童生徒の変容

- ・ 震災遺構荒浜小学校を見学後、災害や災害発生時の対応について、自分事として捉えることができるようになってきた。
- ・ 学区内の地形や自然特性を知り、起こりうる災害について「どう対応すればよいか」を考えることができるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 「震災遺構荒浜小学校見学」（5学年 総合的な学習の時間）

12月に震災遺構荒浜小学校を見学してきた。語り部の説明や実際に見る活動を通して、東日本大震災の被害の大きさや恐ろしさを感じ取り、自分事として捉えることができた。



(2) 「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」（5学年 理科）

学区内の地形や自然特性を知ることから始まり、土砂災害、減災の学習を通して、避難行動で気を付けることや防災用品の準備などの必要性を学んできた。家庭で防災についての会話が増えるなど意識の高まりがみられた。

6 年間指導計画をカリキュラム・マネジメントの視点で見直したとき、令和4年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立加茂小学校 防災教育年間指導計画

<5年生>

(指導の際は、防災を意識して、教科等を柔軟に横断的に指導する。防は、防災教育の副読本を、安は、安全の本の副読本を使用する。)

月	防災管理	組織活動	防災教育(防災学習・防災指導)		
	関連行事		教科	道徳	特別活動その他
4	<ul style="list-style-type: none"> 安全のきまりの確認 安全点検年間計画確認 避難経路確認 危機管理体制に関する研修(危機管理マニュアル読み合わせ) PTA 危険箇所地区巡視 校内安全点検・地区巡視 街頭指導 		<ul style="list-style-type: none"> 天気の変化(理) 		<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所の確認 緊急連絡カード作成 安全マップ作り 家族防災会議 防家族防災会議を開こう(4章6) 新学年になって(安校内での安全) 防歩み出す力強く(1章2)
5	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 不審者安全教室 一斉下校訓練 		<ul style="list-style-type: none"> 天気の変化(理) 	<ul style="list-style-type: none"> お父さんは救急救命士(公共の精神) 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練事前事後安全教室(安命を守る) 安全な登下校(安安全な歩行)
6	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 地震避難訓練 引き渡し訓練 野外活動 		<ul style="list-style-type: none"> 水泳(体) 防応急手当の方法と救急車の呼び方(4章3)(体) 	<ul style="list-style-type: none"> ひさの星(畏敬の念) 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練事前事後安全教室(安災害のとき/ひなん訓練チェック表) 防災害時をくらすヒント(4章4) 野外活動(安校外学習での安全) 雨の日の過ごし方(安校内での安全)
7	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 		<ul style="list-style-type: none"> 水泳(体) 	<ul style="list-style-type: none"> 防希望の詩～「ない」～(2章1) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの過ごし方(安夏の安全/自転車に乗るとき)
8	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 街頭指導 		<ul style="list-style-type: none"> 水泳(体) 	<ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんが残したもの(生命の尊さ) 	<ul style="list-style-type: none"> 防東日本大震災発生2011年3月11日14時46分(1章1)
9	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 街頭指導 火災避難訓練 		<ul style="list-style-type: none"> 水泳(体) 流れる水のはたらき(理) 台風と天気の変化(理) 防いろいろな自然災害(3章2) 	<ul style="list-style-type: none"> 卵焼き(家族愛) 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練事前事後安全教室(安災害のとき/ひなん訓練チェック表) 安校外学習での安全 防震災遺構荒浜小学校見学
10	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 加茂地域防災訓練 		<ul style="list-style-type: none"> 流れる水のはたらき(理) 防災害に備える(4章5) 防心と向き合って(4章7)(体) 		<ul style="list-style-type: none"> 防地震と津波のメカニズムと災害(3章1)
11	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 			<ul style="list-style-type: none"> わたしのボランティア体験(勤労・公共の精神) 	<ul style="list-style-type: none"> 防震災を語りつく(1章3)
12	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 		<ul style="list-style-type: none"> 情報産業とわたしたちのくらし(社) 防災害時の情報手段(3章3) 	<ul style="list-style-type: none"> コースチャぼうやを救え(生命の尊さ) 	<ul style="list-style-type: none"> 雪の日の過ごし方(安冬の安全) 冬休みの過ごし方(安冬の安全)
1	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 街頭指導 		<ul style="list-style-type: none"> 情報産業を生かすわたしたち(社) 	<ul style="list-style-type: none"> 大きなじこをよぶ「ヒヤリ・ハット」(節度・節制) 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練事前事後安全教室(安命を守る)
2	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 			<ul style="list-style-type: none"> 一本松は語った(感動・畏敬の念) 	<ul style="list-style-type: none"> 防震災知識をチェックしよう(6章1)
3	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検・地区巡視 		<ul style="list-style-type: none"> 自然災害を防ぐ(社) 		<ul style="list-style-type: none"> 防仙台の自然災害年表・復興年表(6章3) 春休みの過ごし方